

1 年

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	朝のリレー 2 時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 詩を音読する。 ・詩に登場する国や街がどんなところか、また、そこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 ・詩を読んで想像した情景や、好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。 3 詩の特徴を生かして音読する。 ・詩のよさが伝わるように工夫して音読する。 ◇グループで分担し、リレー形式で読ませてよい。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
言葉に出会うために				
4月	言葉に出会うために 声を届ける 野原はうたう 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 3 時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学習の見通しをもとう」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ◇P14のイラストなどを参考に、小学校での学習を振り返るとともに、中学校の学習への期待感を高める。 ◇今の考えを書き留めさせ、1年後にこの教材に立ち返ることで自己の変容を感じさせたい。 2 音読・発表のしかたを理解する。 ・教科書を読み、音読・発表のしかたについて理解する。 → 二次元コード 「発表のしかた」 →P33「言葉 1 音声の仕組みや働き」 3 「野原はうたう」の二つの詩を音読する。 ・詩に登場する生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に出てくる語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印を付けさせたり、線を引かせたりしながら読ませる。 ◇声の強弱や間の取り方を変えたり、声の大きさや高さなど、言葉の調子を工夫したりすることで、作品から受ける印象が変わることに気づかせる。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介するとよい。 → 二次元コード 「作者インタビュー」	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	2-3	4 P18「書き留める」を読み、ノートの手書きの工夫を理解する。 ◇小学校のときのノートの取り方と比較させる。 5 P19「言葉を調べる」を読み、辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ・辞典・事典の種類の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。 →P274「語彙ブック」(辞典を活用して言葉を広げよう) 6 P20「続けてみよう」を読み、「言葉の手帳」を作る。 ・印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。 ・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流させる。	【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →ノートの書き方の工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えた

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)		◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。 7 学習を振り返る。 ・音読や発表をするとき、発表を聞くときにはどんなことに気をつけるとよいか、気づいたことをまとめる。 ・友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。	いことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。
1 学びをひらく				
4月	はじまりの風 4 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 (思・判・表C(2)イ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 作品の全体像と場面ごとの心情を捉える。 ・登場人物は誰かを確かめる。(課題1-①) ・物語全体を幾つかの場面に分ける。(課題1-①) ・場面ごとに、登場人物の心情がわかる表現を挙げる。(課題1-②) →P29「カギ」「心情の変化をとらえる」 →P276「資」『『学びのカギ』一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇小学校で学習してきた物語の読み方を思い出させながら進める。 3 3 心情の変化を整理する。(課題2) ・課題1で挙げた表現を基に、場面の展開に沿ってレンの心情の変化を捉え、図などを使って整理する。 4 4 整理した内容を基に話し合う。(課題3) ・整理した図をグループで見せ合いながら、自分が着目した表現や、そこから読み取れるレンの心情の変化について話し合う。 ・話し合いを通して新しく気づいた点があれば、図に書き足す。 ・文章の中から、「風」に関する言葉を抜き出したリ、「風」を表す言葉を自分で集めたりする。 →P29「言の葉」 ◇作者のインタビュー動画を見せ、感じたことを発表させてもよい。 →二次元コード「作者インタビュー」 5 学習を振り返る。 ・場面ごとの心情の変化を図を用いて整理することで、どんなことがわかったか、自分の言葉でまとめる。 ・どんな表現を手がかりに心情の変化を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・好きな小説や映画などの登場人物について、心情の変化を図で表す。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →図などを使って、心情の変化を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	-	・春の植物や動物にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ俳句や和歌、詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流させる	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	4	互いの改善点を見つける。 →P35 カギ 「わかりやすい話の構成を考える」 →P280 窓 『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く) → 二次元コード 「学びの地図」 →P341 窓 「ICT活用のヒント」 →P37 言の葉 ◇伝えたいことを明確にし、構成や表現を工夫させる。また、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意させる。 3 スピーチの会を開く。 ・順番を決め、スピーチの会を開く。 ・聞き手の反応を踏まえ、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。 → 二次元コード 「スピーチをする」 →P16 「声を届ける」 ◇伝えたいことを届けようとする姿勢を大切にさせたい。 →P37 「達人からのひと言」 4 学習を振り返る。 ・スピーチについての感想を交流する。 ・内容や話し方について、よいと思ったことを伝え合う。 ・声の大きさや間の取り方などを、どのように工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の伝えたいことが、聞き手にはっきりとわかりやすく伝わるように、スピーチの構成や表現で工夫した点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・今回学んだことの中で、次にスピーチをするときに生かしたいことを挙げる。 ◇P34 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
5月	漢字 1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう 1 1 時間 ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。 2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。 3 部首について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 → 二次元コード 「漢字一覧表」 5 P40 「漢字に親しもう 1」の問題に取り組む。 → 二次元コード 「漢字一覧表」 →P19 「言葉を調べる (漢和辞典)」 →P260 「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308 窓 「一年生で学習した漢字」 →P321 窓 「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257 「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2 新しい視点で				
5月	ダイコンは大きな根？ 2 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →本文中で比較がどのように使われ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	2	→二次元コード「漢字の練習」 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) ・筆者が「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つけ、それぞれ短い言葉でまとめる。 3 段落の役割について考える。(課題2) ・この文章を構成する10の段落が、文章全体の中で、それぞれどんな役割を果たしているかを考える。 →P45「カギ」「段落の役割に着目する」 →P278「窓」『『学びのカギ』一覧』(説明文) →二次元コード「学びの地図」 4 筆者の説明のしかたについて話し合う。(課題3) ・筆者の説明のしかたに注目して、この文章のわかりやすさの秘密を話し合う。 ◇題名や説明のしかた(問いと答え、比較、図など)に着目させるとよい。 5 学習を振り返る。 ・筆者は、何と何を、何のために比較しているかまとめる。 ・段落が果たす役割には、どのようなものがあったか挙げる。 ・わかりやすく説明する工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを一つ挙げる。	ているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
5月	ちょっと立ち止まって 3時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 ・文章全体を、序論・本論・結論に分け、さらに、本論を三つのまとまりに分ける。(課題1-①) ・結論に書かれている内容に着目して、文章の要旨をまとめる。(課題1-②) →P51「カギ」「文章の構成に着目する」 →P278「窓」『『学びのカギ』一覧』(説明文) →二次元コード「学びの地図」 3 文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考える。 ・文章と図との対応に注意し、本論の図がそれぞれ何を述べるために示されているかをひと言でまとめる。(課題2-①) ・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。(課題2-②) 4 考えたことを伝え合う。(課題3) ・筆者の主張を踏まえ、生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前には気づかなかった、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告させるとよい。 ・本文から「見る」ことに関する言葉や慣用句を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →筆者の主張と事例との関係を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P51「言の葉」 5 学習を振り返る。 ・筆者の主張と事例の関係を、どのような方法で整理したか挙げる。 ・文章の要旨を捉えるときには、どんな手順で進めるとよいか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者はなぜ、「他の見方を試して」みることを勧めているのか、「ちょっと立ち止まって」という言葉を使って、一文にまとめる。	
6月	情報整理のレッスン 比較・分類 1 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 学習の目的を理解する。 ・P52上段の導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 ・①比較する(表)、②分類する(ラベリング)、③分類して比較する(ベン図)、④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。 ◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表させるとよい。 3 問題1～2に取り組む。 ◇情報を整理した後、グループで考えを交流させ、目的が達成できれば、整理のしかたや観点の立て方は多様であってよいことに気づかせたい。 4 学習を振り返る。 ・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる。 →P9「思考の地図」 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。 【態】情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
6月	情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く 4 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 情報を集め、整理する。 ・取り上げる題材(道具)を選ぶ。 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・道具を観察したり、試しに使ったりして、気づいたことを書き出し、整理する。 ・説明に必要な情報を絞り込む。 →P55「カギ」「情報を集めて取捨選択する」 →P280「資」『「学びのカギ」一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P9「思考の地図」	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。 【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
		2	2 構成を考える。 ・選んだ情報をどういう順序で提示するとわかりやすいかを考える。	
		3-4	3 文章にまとめる。 ・P57の文章の例を参考に、300～400字程度で文章にまとめ、わかりやすい文章になるように推敲する。 ◇タブレットなどを使って文章を作成すると、推敲しやすい。 →P56「言の葉」	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)		→P56「達人からのひと言」 4 交流する。 ・友達と読み合い、内容や説明のしかたについて、わかりやすいと思った点を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・集めた情報を、どんな方法で整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・どのような目的で、どのような工夫をして情報を取捨選択したか、自分の言葉でまとめる。 ・わかりやすく説明する工夫の中で、次に生かしたいことを挙げる。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
6月	言葉 2 指示する語句と接続する語句 1 時間 ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 ・P58の表を基に、指示する語句(「こそあど言葉」)の種類を把握する。 ・例を基に、前後の文をつなぐ働きを理解する。 3 接続する語句について理解する。 ・P59-60の表を基に、接続する語句の働きによる分類について理解する。 ・例を基に、接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることを知る。 4 学習したことを日常につなぐ。 ・P60「読むことに生かす」を読み、接続する語句が、段落の関係をつかむ手がかりになることを理解する。 ◇既習の「ダイコンは大きな根?」や「ちょっと立ち止まって」の文を例に理解させるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ) →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる				
6月	空の詩 三編 【書く】詩の創作教室 3 時間(読②書①) ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏ま	1-2	◇次の教材「言葉 3 さまざまな表現技法」と併せて扱うと効果的である。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 三つの詩を音読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 詩について、感じたことを交流する。 ・「よさやおもしろさを感じたところ」や、「どういことだろうと思ったところ」のような観点で、感じたことや考えたことを交流する。(課題1-①、②) ◇いずれも空の詩であることを確認させる。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 ・それぞれの詩について、提示された観点から考えをもつ。(課題2-①) ・三つの詩の中で、最も印象に残った表現とその効果について、話し合う。(課題2-②) ◇友達の意見との共通点や相違点を確認させる。 ◇季節や時間(朝・昼・夜)を想像させてもよい。 4 最も印象に残った詩について発表する。(課題3) ・選んだ詩のいちばんのよさ(おもしろさ)や印象に残った表現などの観点に沿ってメモを作り、	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確に

[illegible]

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			び、どんなときに使えるか考える。	
6月	文法への扉 1 言葉のまとまりを考えよう 文法 1 言葉の単位 1 時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P75の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P242「文法 1 言葉の単位」を読む。 →二次元コード「練習問題」 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いとそれぞれの特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・P243「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
7月	語彙を豊かに 心情を表す言葉 1 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 学習の目的を理解する。 ・リード文を読み、心情を的確に表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひとりで表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 ・P76の図を参考に、似た意味の言葉を集める。 ◇国語辞典や類語辞典を活用させるとよい。 →P270「語彙ブック」(心情・行為を表す言葉) →P19「言葉を調べる」 →P9「思考の地図」 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 ・P77の図などを参考に、集めた言葉の中から気持ちを的確に表現できる言葉を選び、文を書き換える。 →二次元コード「漢字の練習」 5 学習を振り返る。 ・言葉を集めて比べたことを通して、気づいたことを話し合う。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉の語感の違いに注意しながら、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
情報×SDGs				
7月	情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう 3 時間 (読②書①) ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べるテーマを決める。 ・SDGsの17の目標を手がかりに、疑問に思ったことや、詳しく知りたいと感じた問題を書き出す。 →二次元コード「SDGsについて考え、行動しよう」 →P282「発想を広げる」 →二次元コード「漢字の練習」 2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 ・P80「図書館で情報を集める」「ウェブサイトで情報を集める」を読み、それぞれの場合での情報の集め方を理解する。 ・自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。 3 情報を読み取る。 ・資料から正しく情報を読み取る方法と、必要な情報を記録する方法を理解する。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →考えを述べる際に、その考えを支える理由や事例が必要なことを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいこ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 (思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	3	・P81の資料と記録カードの例を参考に、自分が図書館やインターネットで集めた資料から、必要な情報を探してカードに記録する。 4 行動宣言をまとめる。 ・読み取った情報を適切に引用しながら、持続可能な社会の実現に向けて、自分がどんな行動をするかをまとめる。 ・出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。 ◇資料を引用する際には、P82の文例と「引用のルール」を参考にさせるとよい。 5 著作権について知る。 ・著作権の定義や、著作者の許可がない場合について確認する。 ・P83「やってみよう」に取り組み、著作物を使用するときの留意点を確かめる。 6 学習を振り返る。 ・情報の調べ方や読み取り方について、今回学んだことを挙げる。 ・今後、どんな場面で引用や出典、著作権について学んだことを生かせそうか、グループで話し合う。	とを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。
いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ・本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。 2 「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 →P20「続けてみよう」 ◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ・ポップの場合は、読書記録を基に本を決め、必要な情報を整理して、本の魅力が伝わるように紹介する。 ・読書会の場合は、クラスやグループごとに課題本を決め、各自で読んで感想などをメモしておく。その後、話し合いたいテーマなどを決めて、読書会を開く。 ・読書記録の場合は、記録のしかたを確認する。 4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。 ・それぞれの活動で作成したポップやメモ、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示するとよい。 ◇次の教材「本の中の中学生」と併せて指導することも考えられる。 →P86「本の中の中学生」 →P196「研究の現場ようこそ」 →P90、202「本の世界を広げよう」	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
7月	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ 読書案内 本の世界を広げよう コラム 本との出会い 1時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「本の中の中学生」の作品を読む。 ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 2 気に入った作品とその理由を友達と共有する。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)		◇学校図書館や地域の図書館に行つて続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。 3 P90「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 ◇P93「コラム 本との出会い」を参考に、夏休みの課題として、「本の中の中学生」等のテーマを設定して、推薦文を書かせてもよい。書いた推薦文は、展示したり、それを基にスピーチをしたりして、友達と交流させることもできる。 →P92「私の一冊」 →P93「本との出会い」 →P284資「読書感想文の書き方」 →P286資「文章の推敲・原稿用紙の使い方」 →P290資「幻の魚は生きていた」 →P294資「坊っちゃん」 ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。 【態】進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
7月	季節のしおり 夏 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・夏の植物や動物にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ詩や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 心の動き				
9月	大人になれなかった弟たちに…… 4 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 ・「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」がヒロユキのミルクを盗み飲みしてしまった理由を確かめる。(課題1-①) ・提示された部分から「僕」や「母」の心情を考える。(課題1-②) →P105カギ「描写に着目する」 →P276資『『学びのカギ』一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引かせ、心情を考えさせる。 3 題名のもつ意味について考える。(課題2) ・出典の絵本や、戦争に関する本や資料を併せて読み、作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。 →P103広がる読書 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 ・「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」が片仮名表記であることの意味や効果について考える。 →P105言の葉 →二次元コード「作者インタビュー」 5 思いを伝える朗読会をする。(課題3) ・場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように、心に残った場面を朗読し、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・関連する本や資料を読むことは、作品の理解にどう役立ったかまとめる。 ・登場人物のどんな心情が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・話し合いや朗読会の中で、自分の考えを広げるのに役立った友達の意見を挙げる。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。 【態】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
9月	星の花が降る所に 5 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 3-4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「銀木犀の写真」 2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品を幾つかの場面に分ける。(課題1-①) ◇P22「はじまりの風」での場面分けの学習を振り返らせるとよい。 ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(課題1-②) 3 場面や描写を結び付けて内容を解釈する。(課題2) ・同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。 →P115カギ「結び付けて解釈する」 →P276資『『学びのカギ』一覧』(文学)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
		5	→二次元コード「学びの地図」 ・「雪が降るように」のような比喻表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 →P115言の葉 →P68「言葉3 さまざまな表現技法」 4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題3) ・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。 5 学習を振り返る。 ・場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 ・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書く。	
9月	項目を立てて書こう 案内文を書く 3時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 情報を整理し、構成を考える。 ・案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。 ・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。 →P116カギ「必要な情報を明確に伝える」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P288資「手紙の書き方」 2 案内文を書く。 ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、案内文を書く。 ◇必要な情報が明確に伝わるように、事柄・目的・相手に合わせて情報を整理し、項目の分類や順序を工夫させる。 →P118「読み手の立場に立つ」 →P341資「ICT活用のヒント」 3 学習を振り返る。 ・互いの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。 【態】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
9月	【推敲】読み手の立場に立つ 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、P118の地域の人に出す体育祭の案内文の下書きを下段1・2の指示に沿って書き改める。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 →P286資「文章の推敲・原稿用紙の使い方」 2 書き換えた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。 ◇推敲した文章を互いに比較させながら進めるとよい。 3 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →正確でわかりやすい表現に書き改めている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかな

[illegible]

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			・この文章で示された事実は、筆者の意見とどのような関係にあるか、自分の言葉でまとめる。 ・この文章の構成や展開には、どんな効果があったか、「〇〇を根拠とすることで」という言葉を使って述べる。 ・仮説を検証する形で自分の意見を述べることの効果を挙げる。	
10月	思考のレッスン1 意見と根拠 1時間 ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P138上段の文章を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 ・P138中段①②③について、適切な根拠が示されていると思うか考える。 ・適切な根拠について話し合う。 ・問題1に取り組み、適切な根拠が示されているか、またなぜそう考えたかを答える。 3 意見と根拠の結び付きを考える。 ・P139中段の二つの意見について、根拠と結び付ける理由づけを確認する。 ・問題2に取り組み、理由づけを考える。 4 学習を振り返る。 ・意見を聞いたり、伝えたりするときのポイントを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →適切な根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 【態】 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
10月	根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する 5時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 2-3 4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題を決め、調べる。 ・P144～145の資料などを参考にしながら、課題を決め、情報を集める。 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P144「統計資料の例」 →P282「発想を広げる」 2 構成を考える。 ・レポートの体裁や引用のしかた、出典の示し方を確かめる。 ・集めた情報を整理し、レポートの項目ごとに、書く内容と順序を考える。 ◇P52「情報整理のレッスン 比較・分類」を再読し、情報の比較・分類のしかた、順序や流れの整理のしかたを確認させるとよい。 ◇『言葉』をもつ鳥、シジュウカラや「思考のレッスン1 意見と根拠」での学びを生かし、根拠となる事実と、意見のつながり確かめさせるとよい。 →P137「力ギ」「構成や展開の効果を考える」 3 レポートを書く。 ・タブレットなどを活用し、引用のしかたに注意して、調べたことや考えたことを文章にまとめる。 →P341「ICT活用のヒント」 ・引用のしかたや、根拠の明確さなどについて助言し合い、推敲する。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言を基に、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】 根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P78「情報収集の達人になろう」 →P141「カギ」根拠を明確にして書く」 →P280「資」『学びのカギ』一覧（書く） →二次元コード「学びの地図」 →P143「言の葉」 ◇P144「統計資料の例」にある資料を使ってまとめさせてもよい。 ◇P142の文例を参考に、レポートの完成イメージをもたせるとよい。 ◇引用のしかたや出典の示し方を確認させる。 →P143「達人からのひと言」 4 レポートを読み合い、交流する。 ・友達とレポートを読み合い、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。 ◇タブレットのコメント機能などを使って交流するとよい。 →P341「資」「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、資料を引用したか、自分の言葉でまとめる。 ・根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書くために、どんなことに注意したか、自分の言葉でまとめる。 ・説明や報告の文章を読むときに、引用のしかたに注意することで、どのようなよいことがあるか考える。 ◇P140「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
11月	漢字に親しもう3 1時間 ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる（漢和辞典）」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308「資」「一年生で学習した漢字」 →P321「資」「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)イ） →小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
11月	文法への扉2 言葉の関係を考えよう 文法2 文の組み立て 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。（知・技(1)エ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1-2	1 P147の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 ・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P246「文法2 文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」を理解する。 →二次元コード「練習問題」 ・下段の練習問題に取り組む、理解したことを確認する。	【知・技】単語の類別について理解している。（(1)エ） →「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			・P250「書くことに生かす」を読み、文章の推敲に生かせることを知る。	
11月	聴きひたる 大阿蘇 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を読み、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇阿蘇の風景を動画や静止画などで見せるとよい。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。 【態】 進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
11月	季節のしおり 秋 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の植物や動物にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ詩や和歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心にふれる				
11月	古典の世界 音読を楽しむ いろは歌 1時間 ◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ) ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、随筆、漢文・漢詩など、3年間でさまざまな古典作品に触れることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 →二次元コード「『いろは歌』朗読音声」 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。 ◇七五調の「今様」であることに触れるのもよい。	【知・技】 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 【態】 古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
11月	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から 4時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確か	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 ・古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。(課題1-①) →二次元コード「『竹取物語』朗読音声」 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇小学校の高学年で、「竹取物語」冒頭部分は既に	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものになっている。

[illegible]

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		◇例文に線を引かせる。教科書の類題を準備し、練習させ定着させるとよい。 2 P187の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 ・「全くの偶然」「逆の因果関係」「疑似相関」について、筋道の上での問題点を指摘する。 ◇「全くの偶然」である理由や、「原因と結果が逆」である理由を説明させたり、「隠された別の原因」は何かを指摘させたりするとよい。 3 学習を振り返る。 ・話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり話したりする際には、原因と結果の関係に気をつけることが大切だということを確認する。	→原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
12月	漢字に親しもう 4 1 時間 ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	【話し合い(進行)】 進め方について考えよう 1 時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 →二次元コード「話し合いの様子」 2 P190「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉) 3 学習を振り返る。 ・話し合いをよりよく進めるために、どのようなことに気をつければよいか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →動画を視聴し、話題や展開を捉えながら話し合うための工夫について、自分の考えをまとめている。 【態】進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。
12月	季節のおしり 冬 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・冬の植物や動物にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)			言語文化を大切にしようとしている。
12月	話題や展開を捉えて話し合うグループで語り合い、ものの見方を広げる 4 時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話し合いの目的と話題を確認する。 →二次元コード「表現テーマ例集」 →P282【資】「発想を広げる」 2 自分の意見をまとめる。 ・自分の意見と、そう考える根拠をノートに書き出す。 3 グループで語り合う。 ・録画しながら、話題や展開を捉えて語り合う。 ・付箋を使って整理するなど、話し合いを可視化しながら進める。 →二次元コード「グループで話し合う」 →P138「思考のレッスン1 意見と根拠」 →P176『「不便」の価値を見つめ直す」 →P193【カギ】「話題や展開を捉えて話し合う」 →P280【資】『「学びのカギ」一覧』（話す・聞く） →二次元コード「学びの地図」 →P194【言の葉】 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉) 4 話し合いを振り返る。 ・録画を視聴して話し合いを振り返り、効果的だと感じた発言などを共有する。 →P341【資】「ICT活用のヒント」 ・グループでの話し合いの結果を、代表者がクラス全体に報告する。 5 学習を振り返る。 ・どのような点に気をつけて、意見と根拠を話したり聞いたりしたか、自分の言葉でまとめる。 ・話題からそれないように話したり、他の人の発言と結び付けて話したりするために、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・話題や展開を捉えて話し合うにあたって、効果的だと思った友達の発言を挙げる。 ◇P192「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。 【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
いつも本はそばに				
12月	研究の現場によこそ 四百年のスローライフ はやぶさ2 最強ミッションの真実 読書案内 本の世界を広げよう 1 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとと	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「四百年のスローライフ」「はやぶさ2 最強ミッションの真実」を通読する。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇「詳しくはこちら」「続きはこちら」を読み、学校図書館や地域の図書館に行き続きを読んだり、近いテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。 ◇実物の本を提示したり、学校図書館に置いたりすることで、生徒が本を手取りやすくなる。 2 感想を伝え合う。 ・作品を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →読書の意義（読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと）を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →作品を読んで得た疑問や感想を、グループで伝え合う活動を通して、自分の考えを確かなものにしている。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)		◇読書の意義を理解させる活動である。読書案内と、学校図書館の蔵書をリンクさせるなどして、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感させたい。 3 P202「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P90「本の世界を広げよう」 →P290 資「幻の魚は生きていた」 →P294 資「坊っちゃん」 →P284 資「読書感想文の書き方」 ◇P202の二次元コードで、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。 →二次元コード「研究の現場によろこそ」	とを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 自分を見つめる				
1月	少年の日の思い出 〔書く〕別の人物の視点から文章を書き換えよう 漢字に親しもう 5 7 時間（読⑤書②） ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)ウ） ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★小説を書き換えるなど、感じたことや考えたことを書く。（思・判・表B(2)ウ） ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1 2 3-4 5-7	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇文章の中の語句の意味に注意させる。 2 作品の展開を捉える。（課題1） ・語り手の変更に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。 ・時間、場所、出来事に着目しながら、後半を幾つかの場面に分け、それぞれ短くまとめる。 3 表現に着目して、「僕」の心情の変化をまとめる。 ・「僕」から見たエーミールの人柄を端的に表している語句や表現を抜き出す。（課題2-①） ・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、それを盗み、壊してしまうまでの「僕」の心情の変化をまとめる。（課題2-②） ・収集したちょうを押し潰してしまった「僕」の行動の意味を考える。（課題2-③） ◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするとよい。 →P221言の葉 4 別の人物の視点から文章を書き換える。（課題③） ・誰の視点から、どの場面を書き換えるかを決め、作品の展開に沿って書き換える。 →P221カギ「語り手の視点に着目する」 →P276資「『学びのカギ』一覧」（文学） →二次元コード「学びの地図」 ◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。 ・書き上げた文章を読み合い、気づいたことを発表し合う。 5 学習を振り返る。 ・どの語句や表現から、語り手や語り手から見た他の登場人物の人物像が伝わってきたかを挙げる。 ・「僕」のものの見方について、自分との共通点・相違点はどこか、自分の言葉でまとめる。 ・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったかを挙げる。 6 P222「漢字に親しもう 5」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる（漢和辞典）」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。 ◇他の四字熟語を、その意味とともに紹介するとよい。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） →行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。（C(1)エ） →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。 【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)イ） →小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
1月	文法への扉 3 単語の性質を見つけよう 文法 3 単語の分類 2 時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の例題に取り組み、単語の性質について考える。 ・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法 3 単語の分類」を読み、「自立語・付属語」・「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。 →二次元コード「練習問題」 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ◇必要に応じて、P255-256の活用表を用いて理解を深めさせるとよい。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	二十歳になった日 4 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 随筆の内容を捉える。(課題1) ・心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げる。 3 構成や表現の効果について考える。 ・構成で工夫されていると思う点を話し合う。(課題2-①) ・筆者の思いや考えが伝わる表現について、「どう書かれているか」に着目して表現の効果を考える。(課題2-②) →P227 カギ 「表現の効果を考える」 →P276 資 「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 4 自分が考える表現の効果について語り合う。(課題3) ・自分が注目した表現とその効果について、考えたことをグループで語り合う。 ◇P228「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。 5 学習を振り返る。 ・特に印象に残った語句や表現を挙げる。 ・構成や表現の効果に着目することで、随筆のどんな特徴に気づいたか、自分の言葉でまとめる。 ・随筆を書くときに生かしたいことを挙げる。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。 【態】 進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 5 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 随筆の題材を選ぶ。 ・随筆に取り上げたい体験の一つを選び、伝えたいことを明確にする。 →P224「二十歳になった日」 →P282 資 「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P9「思考の地図」 2 材料を書き出し、整理する。 ・取り上げる体験に関する事実や、自分にとって	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるよう

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★随筆など、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	3 4-5	の意味など、随筆の材料を付箋などに書き出し、整理する。 3 構成を考える。 - 書き出した材料を基に、構成を考える。 →P229【カギ】「構成を工夫して書く」 →P280【資】『『学びのカギ』一覧』（書く） →【二次元コード】「学びの地図」 ◇P230「随筆の例」を参考にさせる。導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手が状況をイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝え、構成のイメージをもたせるとよい。 - 自分の伝えたいことが明確に伝わる構成になっているか、友達と助言し合う。 4 随筆を書く。 - 書きだしや結び、描写を工夫して、600～800字程度で書く。 →P230「達人からのひと言」 →P231【言の葉】 ◇タブレットなどを活用し、文章の書きだし部分を共有して、参考にさせ合うとよい。 →P341【資】「ICT活用のヒント」 5 随筆を読み合う。 - 構成や描写で工夫したことや、友達の文章で参考にしたいことなどをまとめる。 6 学習を振り返る。 - 体験や思い、意味を伝えるために、特に吟味して選んだ言葉を挙げる。 - 伝えたい内容が効果的に伝わるように、構成を工夫した部分はどこか、自分の言葉でまとめる。 - 友達の随筆を読み、次に自分が文章を書くときに生かしたいと思った工夫の一つを挙げる。 ◇P228「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	に、構成を工夫している。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書きだしや結び、描写を工夫している。 【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
2月	漢字3 漢字の成り立ち 1時間 ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 漢字の成り立ちについて理解する。 「象形」「指事」「会意」「形声」を用例とともに確認する。 - 国字について知る。 - 漢字の分類「六書」について知る。 2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。 →【二次元コード】「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる（漢和辞典）」	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1イ) →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
2月	一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する 4時間（話聞②書②） ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用の	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 観点を決め、学習を振り返る。 1年間の学習を思い出し、印象に残っていることや興味を引かれたことを挙げ、振り返る観点を	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2イ) →情報の整理のしかたを理解し、要点を

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	しかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	2	決める。 ・教科書やノートなどを読み返し、情報を集める。 →P235「カギ」「一年間の学びを振り返る」 →P280「窓」「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く、書く) →「二次元コード」「学びの地図」 2 情報を整理し、発表内容を決める。 ・集めた情報を分類したり、比較したりして整理し、発表する内容を決める。 ◇カードに書き出し、それらをテーマごとに分類するなどして、発表内容を考えさせるとよい。 →P52「情報整理のレッスン 比較・分類」 →P54「情報を整理して説明しよう」 3 発表用資料を作る。 ・話す内容を決め、構成を考える。 ・スライドやフリップに要点をまとめる。 ◇タブレットなどを活用し、資料を作成してもよい。 →P341「窓」「ICT活用のヒント」 →P236「言の葉」 4 グループの中で発表する。 ・スライドやフリップを使って発表し(各3分)、質疑応答を行う(各3分)。 ・発表の内容や話し方などについて、感想や意見を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのような方法で、集めた情報を整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・伝えたいことを明確にするために、どのような点を工夫したか、挙げる。 ・相手の反応を踏まえて話すときに、どのような点に気がついたか、自分の言葉でまとめる。 ・1年間の学習を振り返って気づいたことの中で、2年生の学習でも生かしていきたいことを挙げる。 ◇P234「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	わかりやすく資料にまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
3月	ぼくが ここに 2 時間 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。(課題1) ・詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。 ◇平易な言葉で書かれた短い詩であるため、印象に残った表現を挙げられない生徒が多い場合は、あまり時間をかけずに課題2へと授業を展開するとよい。 2 表現の意味や、表現技法について考える。 ・提示された二つの表現がどういうことを表しているかを考える。(課題2-①) ・詩に使われている表現技法や表記・表現のしかたの特徴を挙げて、その効果について話し合う。(課題2-②) →P68「言葉 3 さまざまな表現方法」 3 作者の思いについて語り合う。(課題3) ・読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合う。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。 【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
		2		

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			4 学習を振り返る。 ・特に効果的だった表現技法を挙げる。 ・特に想像を広げることができたのは、詩の中のどの部分か挙げる。 ・交流を通して詩の印象はどのように変化したか、簡単に整理する。	
学びを深める				
3月	国語の力試し 3時間（読①話聞①書①） ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ) ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 2 3	1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 → 二次元コード 「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから動画を見せ、メモを取らせるほうが望ましい。 → 二次元コード 「山登りのルートについて」 2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 → 二次元コード 「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P45 カギ 「段落の役割に着目する」 →P227 カギ 「表現の効果を考える」 →P189「進め方について考えよう」 →P193 カギ 「話題や展開を捉えて話し合う」 →P118「読み手の立場に立つ」 →P116 カギ 「必要な情報を明確に伝える」 →P169「古典の言葉」 →P68「言葉3 さまざまな表現技法」	【知・技】 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →比喩の表現技法を理解し、使っている。 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまりについて理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →本文中の「発酵」の説明を適切に抜き出している。 ・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →擬人法の表現の効果について、本文に基づいて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →「山登りのルートについて」の話し合いの展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →案内文で、項目ごとに伝えたいことを整理して明確に書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →小学六年生を想定して、わかりやすい表現に書き換えている。 【態】 今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。

2年

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	見えないだけ 1時間 ◎語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を読み取る。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	【知・技】 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめている。 【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
1 広がる学びへ				
4月	アイスプラネット 漢字に親しもう1 4時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「イヌイット」 2 登場人物の設定を確かめる。 ・冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。(課題1-①) ・人物どうしの関係を図で整理する。(課題1-②) ・ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。(課題1-③) →P27「カギ」「登場人物の設定を捉える」 →P276「資」「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ・ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。(課題2-①) ・「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。(課題2-②) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。(課題2-③) ◇手紙の文面から、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえさせる。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。(課題3) ・ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。 →P27「言の葉」 ・登場人物の設定を図で整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・どんなところに着目して登場人物の設定を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・これまでに読んだ作品の一つを取り上げ、人物の設定を図で整理する。 6 P28「漢字に親しもう1」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」	【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。 【態】 登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→P308【資】「二年生で学習した漢字」 →P321【資】「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
4月	【聞く】 意見を聞き、整理して検討する 1時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの音声聞いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。 - 根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き(「理由づけ」)に無理や飛躍がないか検討したりする。 →【二次元コード】「二人の意見」 2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。 - ペアやグループで意見と根拠の適切さについて話し合って考えを深める。 ◇自分はどちらの意見に近いのか、二人の示したもの他に適切な根拠や「理由づけ」のしかたがないかを考えさせるとよい。 3 学習を振り返る。 - 聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。 【態】進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。
4月	文法への扉 1 単語をどう分ける？ 文法 1 自立語 2時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P31の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 →【二次元コード】「文法ワーク」 2 P242「文法 1 自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 - 下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →【二次元コード】「練習問題」 - P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 【態】学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
5月	魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする 5時間 ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくこと	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案内容を決める。 - 誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 - 現状の課題を見つけ、その解決策を基にするな	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。 【思・判・表】

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ができる。(知・技(1)ア) ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	2-3 4-5	として、提案内容を決める。 →二次元コード「表現テーマ例集」 ◇相手が何を知りたいのかを考えさせるとよい。 2 話の構成や表現を工夫する。 ・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 →P35「言の葉」 →P286「資」「グラフの見方／引用・出典」 ◇提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。 ◇写真などを引用する場合は、出典を明記させる。 ・資料を提示しながら話す練習をする。 →P33「カギ」「資料や機器を活用して話す」 →P280「資」「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ◇資料を提示するタイミングを考えたり、聞き手を意識して話し方に変化をつけたりさせるとよい。 3 プレゼンテーションをする。 ・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。 →二次元コード「プレゼンテーションをする」 →P29「[聞く]意見を聞き、整理して検討する」 →P35「達人からのひと言」 →P341「資」「ICT活用のヒント」 ◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 4 学習を振り返る。 ・いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。 ・録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。 ◇話し方や話の構成、資料や機器の使い方など、振り返りの観点を明確にするとよい。 ・言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか、自分の言葉でまとめる。 ・聞き手の印象に残るプレゼンテーションにするために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考える。 ◇P32「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
5月	枕草子 【書く】自分流「枕草子」を書こう 3時間(読②書①) ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「枕草子」を音読し、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。 →二次元コード「朗読音声」 ◇心に残った季節の一節を暗唱させてもよい。 ◇関連図書などを活用するとよい。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★随筆を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	3	・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 ◇P39のコラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。「徒然草」の学習と関連させてよい。 →P154「仁和寺にある法師」 3 自分流「枕草子」を書く。 →P39「自分流『枕草子』を書こう」 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。 ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由とともに挙げる。 ・書いた「自分流『枕草子』」を、友達と読み合い、感想をまとめる。 ◇自他の季節の捉え方の共通点や相違点を明らかにしながら感想をまとめさせる。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。 ・「書くこと」において、表現の効果を求めて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →季節感を表すものについて、その様子が具体的に想像できるよう、語句や表現を選んで書いている。 【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
2 多様な視点から				
5月	クマゼミ増加の原因を探る 4時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2 3-4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P51「言の葉」 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。(課題1-①) ・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。(課題1-②) ◇「前提」を受けて「仮説1〜3」があり、それらの検証によって「まとめ」が導き出されていることがわかるように整理できるとよい。 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1〜3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。 【態】積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)		の言葉を用いて簡潔にまとめる。(課題2-①) →P51 カギ 「文章と図表を結び付けて読む」 →P278 窓 『『学びのカギ』一覧』(説明文) → 二次元コード 「学びの地図」 ◇図表や写真と結び付いている箇所を本文から探して線を引かせるとよい。 ◇P49の図が「仮説2」と「仮説3」を整理したものであることを確認する。 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、筆者の考えと、自分の考えを書く。(課題2-②) 4 考えたことを話し合う。(課題3) ・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのか、考えたことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。 ・図などを用いて情報を整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の内容を読み取るうえで、最も効果的だと感じた図表や写真はどれか、理由も含めて考えをまとめる。 ・図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな場面で活用できるか挙げる。	考えたことを話し合おうとしている。
6月	情報整理のレッスン 思考の視覚化 1時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、情報の関係を整理して、視覚的に表す方法を理解する。 → 二次元コード 「漢字の練習」 ◇「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくといよい。 2 問題1～3に取り組む。 ◇文章で書くのではなく、単語や一文など短い表現を使うように促す。 ◇視覚的にわかりやすくなるように、付箋や色ペンなどを準備して使わせてもよい。 3 学習を振り返る。 ・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →問題1～3に取り組み、情報と情報との関係を図で表している。 【態】積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
6月	情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 → 二次元コード 「書くことのミニレッスン」 1 題材を決め、情報を集める。 ・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。 ・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。 →P284 窓 「インタビューをする」 →P285 窓 「インターネットの活用」 → 二次元コード 「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ◇図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 ◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。 2 集めた情報を整理する。 ・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分類・整理して自分の目的に合うものを取捨選択している。 【態】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	3 4 5	・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 →P29「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P55「カギ」「多様な方法で集めた情報を整理する」 →P280「カギ」『学びのカギ』一覧(書く) →「二次元コード」「学びの地図」 3 紙面構成を考える。 ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ◇タブレット端末などを用いて、紙面構成を考えさせるとよい。 →P341「ICT活用のヒント」 4 紙面を作成する。 ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 →P57「言の葉」 ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。 5 感想を伝え合う。 ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 ◇わかりやすかったところや、説明の順序や分量、紙面の工夫などについて考えさせる。 6 学習を振り返る。 ・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
6月	漢字 1 熟語の構成 漢字に親しもう 2 1 時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ◇身の回りにある熟語を挙げさせ、その構成を説明させてもよい。 2 練習問題に取り組む。 →「二次元コード」「漢字一覧表」 3 P60「漢字に親しもう 2」に取り組む。 →「二次元コード」「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308「二年生で学習した漢字」 →P321「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
3 言葉と向き合う				
6月	短歌に親しむ 〔書く〕短歌の創作教室 短歌を味わう 5 時間 (読②書③) ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P62「短歌に親しむ」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →「二次元コード」「漢字の練習」 2 短歌を音読し、解説の内容を捉える。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★短歌などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★短歌を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	2 3 4-5	・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(課題1-①) ・短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引く。(課題1-②) 3 短歌に用いられた、表現の効果を考える。 ・それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめる。(課題2) ◇筆者が着目した表現やその効果の他に、生徒自身が着目した部分があれば、それを書かせてもよい。 4 好きな短歌を選び、感想を書く。(課題3) ・本文やP68「短歌を味わう」から好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。 ◇グループごとに1首ずつ担当したり、グループの中で各人が1首ずつ担当したりするなど、状況に合わせて活動させる。 5 学習を振り返る。 ・情景や心情を描写する語句のうち、感想を書くときに特に注目したのはどれか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者の解説を読んで初めて気づいた着眼点や表現の効果には、どのようなものがああったか、自分の言葉でまとめる。 ・短歌の創作に生かせそうなことを挙げる。 6 P66「短歌の創作教室」に取り組む。 ・「準備体操」に取り組み、短歌を作る練習をする。 ・出来事や場面を決めて、短い文章を作る。 ・作った文章を基に、最も伝えたいことを決め、短歌を作る。 ・言葉の順序を入れ替えたり、比喩や体言止めなどの表現技法を使ったりして、表現を工夫する。 ◇言葉を集める際、P9「思考の地図」のマッピングを活用することもできる。 →P14「続けてみよう」 →P268「語彙ブック」(感覚で捉えた言葉) ・完成した作品を集めて、感想を伝え合う。	→情景や心情が生きて伝わる言葉を選んで短歌を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →複数の短歌を比較し、歌われた情景や心情、表現とその効果について考えている。 ・「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果を求めて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 【態】表現の効果について進んで考え、学習の見直しをもって短歌を創作しようとしている。
6月	言葉の力 2時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人	1 2	「目標」や「学習の見直しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の内容を捉える。(課題1) ・三つのまとめりそれぞれの内容を確認する。 3 筆者の考え方を読み取る。(課題2) ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、筆者は、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。 4 筆者の考え方について話し合う。(課題3) ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、知識や経験を踏まえて話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この文章を読むことで、どのようなものの見方や考え方を得ることができたか、自分の言葉で	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →本や文章を読み、さまざまなものの見方・考え方に触れることで、自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。 【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	となどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		4 学習を振り返る。 ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	
いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1 時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 2 「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。 また、夏休みを利用した活動としてもよい。 3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次の教材「翻訳作品を読み比べよう」と併せて指導することも考えられる。	【知・技】 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読みたいかを考えている。 【態】 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
7月	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 1 時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、引用して解	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 → 二次元コード 「漢字の練習」 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム「『わからない』は人生の宝物」を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P290 窓 「盆土産」 →P299 窓 「形」	【知・技】 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →二つの翻訳やコラムを読んで、本や文章には、さまざまなものの見方や考え方が表れていることを理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二つの翻訳を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →翻訳の違いによる作品の印象の違いについて意見を交流し、考えを広げたり深めたりしている。 【態】 表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)			
7月	季節のしおり 夏 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 人間のきずな				
9月	ヒューマノイド 4時間 ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P103「言の葉」	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →過去と現在、伏線と結末を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈している。 【態】登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
		2	2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつか、簡潔にまとめる。(課題1-①) ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。(課題1-②)	
		3	3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。(課題2-①) ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。(課題2-②) →P103「カギ」「登場人物の言動の意味を考える」 →P276「資」『「学びのカギ」一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇中学時代のタクジとの会話や、現在のタクジの言葉に着目して考えるよう促す。	
		4	4 作品を読んで考えたことを語り合う。(課題3) ・作品の構成や人物の言動の意味などに対する解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、語り合う。 →二次元コード「作者メッセージ」 5 学習を振り返る。 ・「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げる。	
9月	字のない葉書 3時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P109「言の葉」 →P274「語彙ブック」(結び付きに着目して言葉を広げよう) 2 二つの思い出を整理する。(課題1) ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人物や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【態】文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
		2	3 表現に着目して、人物の人物や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人物を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。(課題2-①)	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★随筆を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	3	・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。(課題2-②) ・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(課題2-③) →P109^[カギ]「表現の効果を考える」 →P276^[資]『学びのカギ』一覧(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇前半と後半で、心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。 4 「父」に対する「私」の思いについて考える。(課題3) ・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。 5 学習を振り返る。 ・随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか、考える。 ・随筆と小説の違いについて、考えを交流する。	
9月	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 3時間 ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現的效果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉をもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 2-3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 伝える相手や目的、内容を決める。 2 適切な通信手段を選ぶ。 ◇相手や目的に応じて、手紙とメールのどちらを選ぶか考えさせるとよい。 →P288^[資]「いろいろな通信文」 3 手紙や電子メールを書く。 ・それぞれの形式に沿って書く。 ・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。 →P110^[カギ]「表現を工夫して思いを伝える」 →P112「[推敲] 表現の効果を考える」 →P113「言葉2 敬語」 →P280^[資]『学びのカギ』一覧(書く) →二次元コード「学びの地図」 ◇相手や目的に応じて敬語を適切に用いたり、思いや用件が的確に伝わるように具体例を入れたりするなど、表現を工夫させるとよい。 4 学習を振り返る。 ・書いた手紙や電子メールを読み合い、敬語の使用方や表現の工夫について確認し合う。	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。 【思・判・表】 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現的效果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしたりしている。
9月	[推敲]表現の効果を考える 1時間 ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 遠山さんの手紙の下書きを読み、傍線部①～⑧を書き改める。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 2 点線部㉔㉕について、より効果的な表現を考える。 3 学習を振り返る。 ・手紙を推敲する際のポイントを確認する。 ◇推敲前後を比べて気づいたことや、今後どんなときに生かしていきたいかを交流するとよい。	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →どのような言葉を選ぶと、相手の行動を促すことができるかを考えて推敲している。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308【資】「二年生で学習した漢字」 →P321【資】「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	を読んだり、書いたりしている。 【態】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 論理を捉えて				
10月	モアイは語る——地球の未来 5 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 2 3 4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【二次元コード】「漢字の練習」 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(課題1-①) ◇筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。(課題1-②) 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。(課題2-①) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。(課題2-②) →P129【カギ】「論理の展開を吟味する」 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P278【資】『「学びのカギ」一覧』(説明文) →【二次元コード】「学びの地図」 ◇本論で述べられたイースター島の事例が、地球の未来を語る上での根拠となっていることに気づかせる。 4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。(課題3) ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 ◇P127「モアイ・イースター島研究について」なども参考に、筆者の主張に対する自分の立場を明確に示させる。 5 学習を振り返る。 →P129【言の葉】 ・筆者は本文の中で、何を根拠に、どのような意見を述べているかを挙げる。 ・論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開を吟味するときに大切だと感じたことを挙げる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(C(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論理の展開を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や体験と結び付けながら、筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめている。 【態】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	思考のレッスン1 根拠の吟味 1時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、根拠の適切さの吟味のしかたと、意見の説得力の高め方について理解する。 ◇P130に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせるとよい。 2 問題1、2に取り組む。 ◇P131のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠や「理由づけ」が適切かどうかを吟味することが大切だということを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →根拠の適切さを吟味する方法を理解して、問題1、2に取り組んでいる。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10月	適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く 5時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 →P14「続けてみよう」 →P282【資】「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。	【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】 粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
		2	2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 ◇根拠と「理由づけ」についてグループ内で助言を求める場をもたせるとよい。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 →P133【カギ】「適切な根拠を選び、構成を工夫する」 →P280【資】『『学びのカギ』一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P341【資】「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などを活用して、文章の構成を検討させてもよい。	
		3-4	3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 →P134【言の葉】	
		5	4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか、確かめる。 ・自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げる。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			◇P132「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
10月	聴きひたる 月夜の浜辺 1時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を読み、言葉の響きやリズムを味わう。 → 二次元コード 「朗読音声」 ・七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。 ・新出漢字を調べる。 → 二次元コード 「漢字の練習」 ・「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。 2 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を感じ、情景や心情を想像しながら読む。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 【態】 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を訪ねる				
10月	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／ 「平家物語」の主な登場人物たち 1時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 → 二次元コード 「『平家物語』冒頭 朗読音声」 2 『平家物語』の世界』『平家物語』の主な登場人物たちを読み、「平家物語」の概要や文章の特徴、主要な登場人物やあらすじについて知る。 →P304 図 「敦盛の最期」 3 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」を知る。 4 作品を貫く「無常観」と重ねて、再度冒頭部分を朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読む。 ◇漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱させる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →冒頭部分の現代語訳や、「平家物語」のあらすじを読んで、「無常観」を感じ取っている。 【態】 進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	扇の的 ――「平家物語」から 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通し	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 → 二次元コード 「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 → 二次元コード 「『平家物語』朗読音声」	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →「平家物語」の、漢語を巧みに交えた独特の調子やリズムを意識して朗読している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	2 3	2 朗読して古典のリズムを楽しむ。(課題1) ・「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。(課題2-①) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(課題2-②) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。(課題3) ・「平家物語」の登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。 ◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを述べさせるとよい。 ◇P141『「平家物語」の世界」、P151「弓流し」の場面、P304図「敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。 5 学習を振り返る。 ・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。 ・作品を読んで、現代に通じる(現代とは違う)と感じた部分などを挙げる。	・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。 【態】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
11月	仁和寺にある法師 ——「徒然草」から 【書く】人物の特徴を捉えて論じよう 3時間(読②書①) ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード『「徒然草」朗読音声」 →P156「係り結び」 2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。(課題1) 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。(課題2-①) ◇仁和寺の法師と同じような経験をしたことがないか、考えさせてもよい。 ・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。(課題2-②) 4 作者の考え方について話し合う。(課題3) ・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことにも…」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。 5 学習を振り返る。 ・この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか、自分の言葉でまとめる。 ・どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか、確かめる。 ・作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考える。 6 人物の特徴を捉えて、論じる。 ・P157「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →現代語訳や語注などを手がかりにして読み、文章に表れた作者のものの見方、考え方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →仁和寺の法師の描き方などを踏まえて、作者のものの見方について考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →人物像が明確に伝わるように、文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じている。 【態】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		順を確かめる。 ・「扇の的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度の文章にまとめる。 →P270「語彙ブック」(人物を表す言葉) 7 文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。 8 学習を振り返る。 ・原文の内容を踏まえて登場人物の特徴を捉え、わかりやすく伝えられるように文章の構成を工夫したか、確かめる。	を書こうとしている。
11月	漢詩の風景 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢詩などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 →二次元コード「漢詩 三編 朗読音声」 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇返り点や訓読のしかたを振り返るとよい。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。(課題1) ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3ア) →漢詩の構成や表現の特徴を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3イ) →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。
		2	3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が注目した構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。(課題2-①) ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合う。(課題2-②)	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。
		3	4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読する。(課題3-①) ◇漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。(課題3-②) ◇P164「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か、自分の言葉でまとめる。 ・朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げる。	【態】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
7 価値を語る				
11月	君は「最後の晚餐」を知っているか 「最後の晚餐」の新しさ 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎観点を明確にして文章を比較	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晚餐」を	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にし

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★評論や解説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	3-4 5	評した言葉に、印を付ける。(課題1-①) →P179 言の葉 ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「かつこいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。(課題1-②) ・『『最後の晩餐』の新しさ」で筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。(課題1-③) 3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。(課題2) ・「最後の晩餐」の魅力の説明する方法(説明のしかた)や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 →P179 カギ 「観点を明確にして文章を比較する」 →P278 資 『『学びのカギ』一覧』(説明文) → 二次元コード 「学びの地図」 ◇二つの文章を表に整理して観点ごとに比較させる。P179に示されている観点を参考にまとめてよい。 4 筆者の意図や目的を考える。(課題3) ・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 → 二次元コード 「筆者インタビュー」 5 学習を振り返る。 ・文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げる。	て文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較して発見したことを話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。 【態】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
11月	思考のレッスン2 具体と抽象 1時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、具体と抽象について理解する。 ◇「具体」、「具体化」、「抽象」、「抽象化」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくことよい。 2 問題1、2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。 → 二次元コード 「漢字の練習」	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。
12月	季節のしおり 冬 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P116「聞き上手になろう」 →P183「[話し合い(進行)]話し合いの流れを整理しよう」 →P187【カギ】「互いの立場や意見を尊重する」 →P280【資】「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →【二次元コード】「学びの地図」 →【二次元コード】「討論をする」 ◇タブレット端末などを用いて、討論の様子を録画させておくとうい。 →P341【資】「ICT活用のヒント」 4 討論を振り返る。 ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。 ◇録画を見て振り返るようにするとよい。 5 学習を振り返る。 ・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げる。 ◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
12月	漢字に親しもう 4 1 時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P190「漢字に親しもう 4」に取り組む。 →【二次元コード】「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308【資】「二年生で学習した漢字」 →P321【資】「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
いつも本はそばに				
12月	「自分らしさ」を認め合う社会へ父と話せば／ 六千回のトライの先に 読書案内 本の世界を広げよう 1 時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで理解したことや	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P192「父と話せば」を通読する。 ◇筆者の著書を紹介するとよい。 2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。 ◇原典の本を紹介するとよい。 3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、今後読みたい本を選んでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		→P290【資】「盆土産」 →P299【資】「形」 →【二次元コード】「漢字の練習」	【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 表現を見つめる				
1月	走れメロス 〔書く〕作品の魅力をまとめ、語り合おう 漢字に親しもう 5 8 時間 (読⑥書②) ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア) ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。	1-2 3-5 6-8	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇初読の感想を書かせるべく、課題3で作品の魅力を語る際に、学習の初めと終わりで作品の印象や自分の考えがどのように変わったかを振り返ることもできる。 2 作品の設定と場面の展開を押さえる。(課題1) ・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。(課題2-①) ・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。(課題2-②) ・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。(課題2-③) →P221「カギ」人物像に着目する」 →P276「資」『学びのカギ』一覧(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるとよい。 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。(課題3) ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 →P221「言の葉」 ◇原作(詩「人質」シラー作)を合わせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。 →P179「カギ」観点を明確にして文章を比較する」 5 学習を振り返る。 ・どの語句に着目して、作品の魅力を語ったか、自分の言葉でまとめる。 ・友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか、自分の言葉でまとめる。 ・他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げる。 6 P222「漢字に親しもう 5」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308「資」二年生で学習した漢字」 →P321「資」二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →読み深めたことや、文学の読み方に関する知識・経験を生かして作品の魅力を分析し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 【態】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。 【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
1月	文法への扉3 一字違いで大違い 文法3 付属語 2時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の導入や解説を読み、付属語を使い分けることで内容を的確に伝えられることを知り、その働きや種類について学ぶことを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法3 付属語」を読み、助動詞や助詞の種類や働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P256「口語助動詞活用表」を参照し、活用形や接続のしかたについて確認するとよい。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(1)オ) →助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
1月	描写を工夫して書こう 心の動きが伝わるように物語を書く 5時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を決める。 ・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。 →P14「続けてみよう」 →P66「短歌の創作教室」 →P282「資」「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内)	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す語句を使って書いている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 【態】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
		2	2 設定や構成を考える。 ・設定(時、場所、登場人物)を考える。 ・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。 ・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。	
		3-4	3 物語を書く。 ・描写を工夫して物語を書く。 ・書きあがったら、推敲する。 ◇これまでに学習してきた物語や小説の表現を振り返らせ、どんな点を生かしたいかを考えさせるとよい。 ◇登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。 →P204「走れメロス」 →P225「カギ」「表現の効果を考えて描写する」 →P227「言の葉」 →P227「達人からのひと言」 →P268「語彙ブック」(感覚で捉えた言葉) →P280「資」『「学びのカギ」一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」	
		5	4 作品を読み合う。 ・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。 ・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品の	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ★多様な考えがでる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2 3-4	→P233 カギ 「これまでの学びを価値づける」 →P234 言の葉 →P280 資 『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く／書く) → 二次元コード 「学びの地図」 2 コピーにまとめる。 - 自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。 3 コピーの説明を書く。 - そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。 4 クラスで共有し、交流する。 - 作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。 ◇タブレット端末などのコメント機能を活用して、交流させてもよい。 →P341 資 「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 1年間の学びを振り返る際に、具体的な変化をどのように抽象化してまとめたか、確かめる。 - 対話の際に、互いの考えを尊重しながら、さらに考えを深めるために、どのような点を心がけたか、自分の言葉でまとめる。 - 作品に付いたコメントから見いだした、自分の文章のよい点や改善点は何か、挙げる。 - 友達の作品を読み、さらに考えが深まったことや新しく気づいたことを挙げる。 ◇P232「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの考えを尊重しながら対話し、それを通して自分の考えを整理したり、価値づけたりしてまとめている。 「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →自分の作品の読み手からのコメントを通して、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。
3月	鍵 2時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を音読する。 2 印象に残った語句や表現を話し合う。(課題1) - 詩の中の印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合う。 3 表現の意味を考える。 - 詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。(課題2-①) 「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるか考える。(課題2-②) 4 作者のものの見方について語り合う。(課題3) 「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合う。 ◇詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。 5 学習を振り返る。 - 詩の中で使われているどのような語句に着目したか、挙げる。 - 作者のものの見方を考える手がかりとなった友達の発言にはどんなものがあったか、振り返る。 「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表す。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →詩の中で使われている言葉に着目し、語感や表現の効果を考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 【態】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
国語の力試し				
3月	国語の力試し 3時間 ◎類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。(知・技(1)エ) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせるほうが望ましい。 →二次元コード「話す力・聞く力」 2 2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P36「枕草子」 →P109カギ「表現の効果を考える」 →P29「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」 →P112「[推敲] 表現の効果を考える」 →P110カギ「表現を工夫して思いを伝える」 →P113「言葉2 敬語」 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」	【知・技】 ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ) →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的な部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展開に注意して聞き、伝えたいことを捉えようとするとともに、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 【態】 今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。	

3 年

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	世界はうつくしいと 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を音読する。 ◇読むスピードや音量、読む人数などを変えて、詩を複数回音読させる。詩の内容を考えながら句点で句切り、交替で音読させるのもよい。 2 詩を読み深める。 ・詩を読んで気づいたこと(表現の工夫・作者の意図・特徴的な表現など)を探し、書き出す。 ◇言葉・文字の使い方・リズム・表現技法などに着目させるとよい。 ・隣どうして気づいたことを共有する。 ・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・自分なりの解釈を踏まえて、詩を朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。 【態】 進んで語感を磨き、友達との考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
1 深まる学びへ				
4月	握手 漢字に親しもう1 4時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 作品の設定を捉える。(課題1) ・「現在」と「回想」の部分を読み分けながら出来事を整理し、場面や登場人物の設定を確認する。 ◇回想を織り込んだ展開の特徴を捉え、その効果を考えさせる。 →P27カギ「展開のしかたを捉える」 →P256資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 2-3 3 登場人物の心情や人物像を読み取る。 ・「わたし」とルロイ修道士との間で交わされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(課題2-①) ・ルロイ修道士の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。」ことの意味を考える。(課題2-①) ◇語り手の心情を表す言葉、登場人物の言動や会話、情景描写、出来事など、本文中の表現を根拠にして考えさせる。 ◇心情を表す言葉を本文から二つ程度見つけさせ、全体で共有してからそれぞれの学習に移るとよい。 ・ルロイ修道士の人物像が読み取れる言葉や行動を抜き出し、どのような人物かを短くまとめる。(課題2-②) ◇ルロイ修道士の場面ごとの状況や立場、年齢などを踏まえ、エピソードから読み取れる性格や価値観、ものの見方や考え方を捉えさせる。 ◇人物像を表す言葉を本文から二つ程度見つけさせ、全体で共有してからそれぞれの学習に移るとよい。 →P27言の葉	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。 【態】 物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。
		4	4 読み深めた感想を交流する。(課題3) ・読み深めたことを踏まえ、ルロイ修道士の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じ	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		たことを伝え合う。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 5 学習を振り返る。 ・人物像を表す語句や表現の中で、特に印象に残ったものを挙げる。 ・「握手」の展開のしかたには、どんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・ルロイ修道士について、友達と交流することで考えが深まったことを挙げる。 6 P28「漢字に親しもう1」の新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 7 練習問題に取り組む。 ◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P306「三年生で学習した漢字」 →P317「三年生で学習した音訓」 →P318「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
4月	【聞く】 意見を聞き、適切さを判断する 1 時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。 ・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。 ◇教科書を見せず、音声だけで内容を把握させる。 →二次元コード「坂本さんのスピーチ」 ・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。 2 スピーチをよりよくするための助言を考える。 ・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。 ・自分で考えた助言を友達と共有する。 ◇別の聞き取り教材を教師が準備して、生徒に助言を考えさせてもよい。 →P262「発想を広げる」 3 学習を振り返る。 ・相手の意見を聞き、適切さを判断するために、どのような点に注意して聞いたかを挙げる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。 【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
4月	文法への扉 1 「走って」いるのは誰？ 文法 1 文法を生かす 1 時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を	1	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組み、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。 ・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P230「文法 1 文法を生かす」を読む。 ・文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		かすポイントを確認する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →P228「文法 一、二年生の復習」 →二次元コード「練習問題」	取り組みようとしている。
5月	説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす 3 時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1 2-3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決め、情報を集める。 ・社会生活の中から話題を選ぶ。 →P262「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」 ・話題に関する情報を、信頼性を確かめながら集め、取捨選択する。 →P84「情報整理のレッスン 情報の信頼性」 2 話の構成を考える。 ・聞き手の立場や関心などを踏まえ、どういう展開で話せば説得できるかを考えながら構成を練る。 ・構成メモを作り、友達と助言し合う。 ◇話の構成や表現を工夫する際のポイントや、評価規準などをまとめたワークシートを用意して参考にさせてもよい。 →P33「カギ」「相手を説得するために構成を工夫する」 →P260「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P34「言の葉」 3 スピーチの会を開く。 ・状況に応じた表現を工夫しながら、2～3分でスピーチをする(録画する)。 →二次元コード「スピーチをする」 →P337「ICT活用のヒント」 →P35「達人からのひと言」 ・聞き手は感想や質問を伝える。 ◇評価規準などをまとめたワークシートを用意して参考にさせてもよい。 →P29「意見を聞き、適切さを判断する」 4 交流する。 ・録画したものを見返し、構成や話し方について、よい点や改善点を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのような方法で、情報の信頼性を確かめたかを挙げる。 ・話の構成や表現の中で、相手を説得できるように工夫したのはどの部分か、自分の言葉でまとめる。 ・友達のスピーチを聞き、説得力という観点で、今後に生かしたいと思ったことを挙げる。 ◇P32「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切に確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
5月	言葉 1 相手や場に応じた言葉遣い 1 時間 ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使	1	1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつ。 2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。 ・「相手や場に応じた言葉遣い」を読み、相手との間柄や場などを踏まえて、言葉遣いを選ぶ必要	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、実際の使用場面を想

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	うことができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		があることを理解する。 3 相手や場に応じた表現について理解する。 ・「相手や場に応じた表現の選び方」を読み、相手や場にふさわしい表現を選ぶために、気をつけるとよいことを理解する。 ・P37下段「やってみよう」に取り組む。 4 学習を振り返る。 ・相手や場にふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。	定しながら、適切な使い方を考えている。 【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
5月	学んで時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「論語」について知る。 ・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」を読む。 ◇国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景などを確認させる。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 ・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しや歴史的仮名遣いと現代仮名遣いに注意して、繰り返し朗読する。 ◇必要に応じて、P38-40の脚注を参考に、訓読の方法や返り点の種類などを確認させる。 →二次元コード「『論語』朗読音声」 →P41「漢文の訓読」 ・教科書の現代語訳を基に、孔子が伝えたいことを要約する。 ◇生徒の実態に応じて、要約を家庭学習にしてもよい。 3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。 ◇「論語」の他の章句も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。 4 学習を振り返る。 ・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ俳句や和歌、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
2 視野を広げて				
5月	作られた「物語」を超えて 3時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
6月	論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く 4時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題に沿って材料を集める。 ・P56の課題を正確に理解し、示された資料を読み解く。 ・読み取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを材料として書き出す。 ◇グラフの数値の読み取り方や分析の方法を話し合わせる。 →P56「問いを立て、考えを深める」 →P262資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P265資「グラフの見方／引用・出典」 2 構成や内容を考える。 ・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。 ・多様な読み手を説得できるよう、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。 →P55カギ「論理の展開を考える」 →P260資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 3 小論文を書く。 ・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。 →P56言の葉 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 4 交流する。 ・友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と結び付けたか、自分の言葉でまとめる。 ・説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか挙げる。 ・友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考える。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って資料を読み解き、読み取った事実と、自分の解釈や考えを整理して書き出している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。 【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。
6月	漢字 1 熟語の読み方 漢字に親しもう 2 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え	1	1 P58導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組む。 ◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →二次元コード「漢字一覧表」 4 P60「漢字に親しもう 2」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→ 二次元コード 「漢字一覧表」 →P306 資 「三年生で学習した漢字」 →P317 資 「三年生で学習した音訓」 →P318 資 「常用漢字表」	
3 言葉とともに				
6月	俳句の可能性 【書く】俳句の創作教室 俳句を味わう 4時間(読②書②) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★俳句を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)	1	◇「俳句の可能性」「俳句の創作教室」「俳句を味わう」は、関連させながら一体的に扱うとよい。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 俳句の特徴を確認する。 ・リズムや言葉の響きに注意して、それぞれの俳句を朗読する。(課題1-①) ・俳句の決まり事や形式を確認する。(課題1-②) → 二次元コード 「漢字の練習」 2 筆者の評価のしかたを捉える。(課題2) ・それぞれの俳句に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として筆者が考えたことをまとめる。 3 好きな俳句を選び、鑑賞文を書く。 ・P62「俳句の可能性」やP68「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選ぶ。(課題3-①) ・表現の意図を考え、表現のしかたを評価して、200字程度の鑑賞文を書く。(課題3-②) ◇感じたことや想像したことだけではなく、そう感じさせた表現や特徴を具体的に示させる。 ・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。 4 学習を振り返る。 ・俳句の表現意図や目的に対して、特に効果的だと感じた語句を挙げる。 ・友達の鑑賞文を読んで、新しく気づいた表現の魅力や工夫について、自分の言葉でまとめる。 ・表現のしかたの中で、俳句の創作に生かせそうなことを挙げる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 【態】 進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
6月	言葉の釣り糸を垂らす 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識すると	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字を調べる。 → 二次元コード 「漢字の練習」 2 題名の意味を捉える。(課題1) ・「言葉の釣り糸を垂らす」とはどうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめる。 3 筆者のものの見方や考え方について考える。 ・本文の例を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」を行うことで引き出された記憶や考えを、	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)		200字程度でまとめる。(課題2-①) ・筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているかについて、「実験」をしてわかったことや、最後の一文を踏まえて、グループで話し合う。(課題2-②) 4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3) ・筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合う。 5 学習を振り返る。 ・筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものを挙げる。 ・筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか、自分の言葉でまとめる。 ・今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げる。	→筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。 【態】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
7月	言葉2 和語・漢語・外来語語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化 1 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P72導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。 2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。 ・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。 ・P73「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けするのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。 3 言葉の変化について知る。 ・P74「語彙を豊かに」の教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。 ・これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話などを手がかりにして、時代や世代によって意味や使い方が異なる言葉の例を探し、話し合う。 →P272 資「高瀬舟」 →P286 資「古典・近代文学の名作」 4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。 ・話す相手を自由に設定し、P75上段にある文章をわかりやすく書き換える。 ・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。 ・クラス全体で適切な言い方について確認する。 →P72「言葉2 和語・漢語・外来語」 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ) →古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。 【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、これまでの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
情報×SDGs				
7月	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 2 時間 (読①書①) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・	1	◇ここでの学習は、P84「情報整理のレッスン 情報の信頼性」と関連させながら扱うと効果的である。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P76「やってみよう」①に取り組む。 ・下段の A・B から、青田市では、それぞれの物をどのように分別したらよいか、読み取る。 ◇分別のしかたが読み取れる部分に線を引いたり印を付けたりさせるとよい。 2 P77「やってみよう」②に取り組む。 ・グループを作り、実用的な文章には、他にどん	【知・技】 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ) →示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	技(2)イ) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2	なものがあるか、具体的な例を身の回りから挙げる。 ・実用的な文章を読むときには、どんなことに注目して読めばよいか、考えて話し合う。 3 P78-81の報道文 A・B を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。 ・示された観点を参考に、二つの記事を比べ、表に整理する。 ◇P82の表を基に、記事の内容を整理できるワークシートを用意するとよい。 ◇なかなか書きだせない生徒には、P83「達人の視点」を読ませて参考にさせたり、P253「語彙ブック」(ものの見方を表す言葉、情報を読み取って伝える言葉)に掲載された言葉を活用させたりするとよい。 ・表に整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを300字程度でまとめる。 ・報道文を読むときに気をつけるとよいことについて考える。 4 学習を振り返る。 ・実用的な文章を適切に読み取るには、どのようなことに注意するとよいか、自分の言葉でまとめる。 ・報道文には、発信者の立場や意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。 →二次元コード「漢字の練習」	・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。 【態】 ・文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。 ・文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
7月	情報整理のレッスン 情報の信頼性 1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P84の教材文を通読し、問題1に取り組む。 ・メディアが伝える情報は編集されているため、情報の信頼性を吟味する必要があることを確認する。 ・P84中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P84下段の問題1に取り組む。 2 P85の教材文を通読し、問題2に取り組む。 ・同じ事実でも、情報の発信者の受け止め方や伝え方などによって、情報を受け取る側の印象も変わることを確認する。 ・P85上段 A・B を基に、客観的事実と思われる出来事を抽出し、発信者がどのような意図で報じたかを考える。 ・P85中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P85下段の問題2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・情報の信頼性の確かめ方について、生活の中で大切にしたいことを挙げる。 ◇前の教材で扱った実用的な文章の信頼性と併せて振り返らせてもよい。 →P76「実用的な文章を読もう」 →P78「報道文を比較して読もう」	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。 【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして問題に取り組もうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 『私の一冊』の紹介、「ブックレビュー」、「三年間の読書の振り返り」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 ・『私の一冊』の紹介、「ブックレビュー」を選んだ生徒は、2～6人程度のグループを作る。「三年間の読書の振り返り」は個人で行う。 ◇学校や地域の状況に応じて、教師が活動を決めてもよい。 ◇P94「本の世界を広げよう」のテーマや本を参考にして、取り組ませてもよい。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 ◇活動計画などを示したワークシートを用意し、配付するとよい。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。 ・「三年間の読書の振り返り」を選んだ生徒はP87を参考にレポートを、『私の一冊』の紹介または「ブックレビュー」を選んだ生徒はグループごとに活動し、活動報告書を夏休み明けに提出する。 ◇レポートや活動報告書を作成するためのワークシートを用意し、配付するとよい。 ◇次の教材『私の一冊』を探しにいこう」と併せて指導することも考えられる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 窓 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 窓 『『学びのカギ』一覧』(説明文)	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 【態】 進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
7月	「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと？ 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。 →二次元コード「漢字の練習」 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。 ◇P94「本の世界を広げよう」を参考にしてもよい。 →P96「私の一冊」 →P97「ためになるってどんなこと？」 →P268 窓 「二つの悲しみ」 →P272 窓 「高瀬舟」 3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。 ◇読書活動を促すために、書評やポップを書く活動を取り入れるとよい。P88の例を参考にさせたり、書き方(あらすじや作者の紹介、引用のしかた、レイアウトの工夫など)を示したワークシートを用意して配付したりするとよい。 ◇本の魅力が伝わる書評やポップを作ること、そのために工夫が必要であることを意識させる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 窓 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 窓 『『学びのカギ』一覧』(説明文) ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。 ◇本の探し方や書いたものを共有し、よいところを交流させるとよい。	【知・技】 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。 【態】 進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
7月	季節のしおり 夏 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・夏の気象にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ俳句や和歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 状況の中で				
9月	挨拶 ——原爆の写真によせて 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。 ・注意する語句を調べる。 ・作品ができた背景や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 2 「顔」が象徴しているものを捉える。(課題1) ・詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれ誰の、どのような様子を表しているのか考える。 3 表現の効果を評価する。 ・第6連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現の意味と、その効果を考える。(課題2-①) ・第7連にある「やすらかに 美しく 油断していた。」とは、どういうことか、「油断」という語句の意味や語感を踏まえて考える。(課題2-②) 4 自分の意見を述べる。(課題3) ・作者は、この詩を通して、誰に、どのようなことを伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 5 学習を振り返る。 ・特に心に迫ってきた語句・表現を挙げる。 ・作者の思いや訴えを表すうえで、特に効果的だと感じた表現を挙げる。 ・詩を読み深めるための新たな視点や気づきをくれた、友達の見聞きを書き留める。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喻や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。 【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
9月	故郷 5時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読し、作品の設定を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・作品の舞台や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 ・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(課題1-①) ◇人物相関図などを使って整理させるとよい。 ・時や場所、人物に着目して、場面に分ける。(課題1-②) →P27「カギ」展開のしかたを捉える 2 場面や登場人物の設定に着目して読み深める。 ・ルントウとヤンお婆さんについて、回想の場面と現在の場面とを比べ、描写の変化を抜き出す。(課題2-①) ・ルントウと再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か、考える。(課題2-②) ・最後の場面で「私」が考える「新しい生活」や「希望」とはどのようなものか、「私」とルントウ、ホンルとシュイシヨンの関係などを踏まえて考える。(課題2-③) 3 読み深めたことを基に、作品を批評する。(課題3) ・作品のもつ特性や価値について、「学びのカギ」を参考に、観点を決めて批評する。 ◇描かれた内容を自分の知識や経験、考えと比べたり、別の視点や立場から作品を捉え直してみ	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたらしめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			たりするなど、批判的に読ませる。 →P119 カギ「文学作品を批評する」 →P256 資「『学びのカギ』一覧」(文学) → 二次元コード「学びの地図」 →P119 言の葉 →P86「読書を楽しむ」 →P88「『私の一冊』を探しにいこう」 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 4 学習を振り返る。 ・生き方や社会を考えるうえで、読書にはどんな意義があると感じたかを挙げる。 ・作品を読んで、納得や共感ができたこと、できなかったことについて、自分の言葉でまとめる。 ・現代の日本とは異なる時代や状況を描いた小説を読む際、自分の考えをもつために必要だと思う観点を挙げる。	
9月	【推敲】論理の展開を整える 2時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。 ・示された三つの観点を参考に、それぞれの箇所を書き改める。 → 二次元コード「書くことのミニレクソン」 →P264 資「グラフの見方／引用・出典」 2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。 ・示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。 ◇「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組ませるとよい。 2 3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。 ・書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。 4 学習を振り返る。 ・今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ) →目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章を推敲している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確かめ、必要に応じて整えている。 【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。
9月	言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え	1	1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。 →P250「語彙ブック」(慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語) ◇国語便覧などで調べさせてもよい。 2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。 ・慣用句を使って短文を作る。 ・ことわざや故事成語の意味を調べる。 ・P123「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。 ◇インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。 【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		3 学習を振り返る。 →二次元コード「漢字の練習」	
10月	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 1 時間 ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対談の準備をする。 ・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。 ◇話し手には、聞き手に話題を伝えたいので、特に話したいことを決めさせる。 ◇聞き手には、話題について調べ、質問を考えさせる。 →二次元コード「対談をする」 2 対談を行う。 ・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。 ◇聞き手には、以下のポイントを意識させる。 ・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。 ・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。 ・聴衆も楽しめるように意識する。 →P36「言葉1 相手や場に応じた言葉遣い」 →P124カギ「質問で相手の思いに迫る」 →P260資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ◇話し手には、以下のポイントを意識させる。 ・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。 ◇聴衆には、対談の様子を観察させる。授業の最後に講評させてもよい。 ◇「相手や場に応じた言葉遣いができていたか」「話し手の内面に迫る質問ができていたか」など、評価の観点を示したワークシートを配付しておくといふ。 3 学習を振り返る。 ・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。
10月	漢字2 漢字の造語力 1 時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。 2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P306資「三年生で学習した漢字」 →P317資「三年生で学習した音訓」 →P318資「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
5 自らの考えを				
10月	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う 3時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 3人の筆者の提言を通読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇通読後は、二次元コード「基礎資料」「筆者インタビュー」を確認・視聴させてもよい。 2 文章の要旨を捉える。(課題1) ・3人の筆者が、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか、それぞれの提言の要旨をまとめる。 ◇題名や文章の結論部に着目させ、筆者が読者に最も伝えたいことを捉えさせるとよい。 2 3 文章を比較して評価する。 ・観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。(課題2-①) ・提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価する。(課題2-②) →P135カギ「文章を批判的に読み、評価する」 →P258資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 →P54「論理の展開を意識して書こう」 ◇P134に示された観点別の表をワークシートにして配付し、文章の比較から明らかになった特徴をまとめさせてもよい。 ◇3人の筆者のものの見方・考え方について、自分の知識や経験、他の人の考えなどと比べながら、批判的に読ませる。 ◇三つの提言をどのように評価したか、根拠を明確にさせる。 3 4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。 ・三つの提言をどう評価するか、グループで討論する。(課題2-③) ・討論を踏まえ、自分の考えをまとめる。(課題3) ◇教科書に示された書きだしを参考に、三つの提言に対する自分の考えをまとめさせる。 5 学習を振り返る。 ・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。 ・文章を批判的に読み、評価するときに留意すべきことは何か、考える。 ・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留める。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。 【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
10月	考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く 5時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやす	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を選ぶ。 ・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりす

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	く伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2 3-4 5	→P262[資]「発想を広げる」 →[二次元コード]「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ◇先にP139「批評文の例」を読み、批評文のイメージをつかませてもよい。 2 観点を決めて分析する。 ・観点を決めて問いを立て、考えを深める。 →P265[資]「グラフの見方／引用・出典」 ◇「発信者の意図」「相手意識」などについて分析させる。 ◇P138「分析する」を読み、問いを立て、考えを深める際の参考にさせる。 ◇自分の考えについて、具体的な根拠や資料などを挙げさせて、説得力をもたせる。友達と意見を交流させて、さらに考えを深めさせるとよい。 3 構成を考える。 ・自分の考えをわかりやすく伝えるための論理展開や表現のしかたを考える。 4 批評文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 →P137[カギ]「論理の展開や表現を工夫する」 →P260[資]「『学びのカギ』一覧」(書く) →[二次元コード]「学びの地図」 →P138[言の葉] →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) ◇タブレット端末などを活用し、下書き段階で、論理の展開や表現のしかたなどをどのように推敲したか、情報共有させるとよい。 5 友達と文章を読み合う。 ・批評に有効な観点や表現、論理展開などについて話し合い、互いに助言する。 →P337[資]「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などの共有機能を活用し、助言や感想を交流させるとよい。 6 学習を振り返る。 ・どのような具体例を挙げ、どのように自分の考えと結びつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の文章を読み、物事を批評するときに、今後参考にしたいと思った分析の観点や表現の工夫を挙げる。 ◇P136「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	るなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
10月	漢字に親しもう3 文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 文法2 文法のまとめ 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることがで	1	1 新出漢字を確認する。 →[二次元コード]「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306[資]「三年生で学習した漢字」 →P317[資]「三年生で学習した音訓」 →P318[資]「常用漢字表」 ◇部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	きる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技 1 年(1)エ、2 年(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		3 P141「文法への扉 2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。 ・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。 →二次元コード「文法ワーク」 →P228「文法 一、二年生の復習」 ◇それぞれの見分け方を理解させる。 4 P233「文法 2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。 ・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。 →二次元コード「練習問題」	【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) →言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。 【態】単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
10月	聴きひたる 初恋 1 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 ・近代に作られた文語定型詩を聴き、響きやリズムなどについて気づいたことを話し合う。 →二次元コード「朗読音声」 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。 ◇「初恋」という詩から読み取った思いと自分の経験とを結び付けて想像させる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の気象にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を受け継ぐ				
11月	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 1 時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化	1	1 P146「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。 ◇P150「君待つと」と併せて学習させてもよい。 ◇P286資料「古典・近代文学の名作」やP292資料「日本文学の流れ」で文学史を知り、歴史的背景に興味をもたせるとよい。 2 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。 【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード『『仮名序』朗読音声』 ◇「和歌」を植物にたとえていることを知り、現代語訳や語注を参考に、作者が和歌をどう捉えていたかを想像させる。	
11月	君待つと ——万葉・古今・新古今 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 歴史的背景を捉える。(課題1) ・P146「和歌の世界」やP148「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や時代背景をおおまかに捉える。 →二次元コード「漢字の練習」 2 和歌の表現について話し合う。 ・声に出して和歌を読み、そこに詠まれた情景や心情を、現代語訳を基に想像する。(課題2-①) →二次元コード「万葉・古今・新古今 朗読音声」 ◇歴史的仮名遣いに気をつけて朗読させ、脚注を参考に、長歌や反歌など和歌の形式を味わわせる。 ・三つの歌集に収められた和歌を比較し、それぞれの歌集に特徴的な表現やその効果について、気づいたことを話し合う。(課題2-②) 3 表現のしかたについて評価する。(課題3) ・和歌を1首選び、表現のしかたに着目して自分の評価を短くまとめる。 →P42・P98・P144・P185「季節のしおり」、P168「古典名作選」の和歌などを用いて選択肢を増やしてもよい。 ◇自分の選んだ和歌に用いられている表現技法に気づかせ、グループで共有させる。 ◇P155「和歌の表現技法」を読み、他の表現技法について興味をもたせることも考えられる。 ◇和歌の歴史的背景や現代に通じる点についてもまとめさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・和歌の時代に生きた人々と現代の私たちの共通点・相違点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・どのような表現のしかたに着目して和歌を評価したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の考えを聞いて新たに気づいた和歌の魅力を挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。 【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
11月	夏草 ——「おくのほそ道」から 3時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識すると	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を声に出して読む。(課題1) ・俳句と地の文から成る構成の効果に気づき、芭蕉の思いを想像しながら全文を朗読する。 →二次元コード『『おくのほそ道』朗読音声』 →二次元コード「漢字の練習」 →P164「俳句と俳諧」 ◇歴史的仮名遣いの読み方に注意させる。 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ・芭蕉の「旅」についての考えが読み取れる部分を抜き出して、現代の旅がもつ意味と比べる。(課題2-①) ・芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかを考える。(課題2-②)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考え

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	3	→P158『『おくのほそ道』俳句地図』 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) - 自分の心に響く俳句を1句選び、その理由や、どのように心に響いたのかについて発表し合う。 ◇P158『『おくのほそ道』俳句地図』にある俳句も参考にさせるとよい。 4 学習を振り返る。 - 歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか、自分の言葉でまとめる。 - 作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か、自分の言葉でまとめる。 - 友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げる。	ている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。 【態】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
11月	つながる古典 古典名作選 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう 1時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1	1 P166「つながる古典」を通読する。 3年間で出会った古典作品のつながりを感じながら、学習を振り返る。 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 ◇年表を基に、作品のジャンルや成立時期、作品どうしのつながりを確認させる。 2 P168「古典名作選」を朗読する。 - 気に入ったものがあればノートに書き出す。 ◇他の詩歌や文学作品なども参考にさせるとよい。 →P38「学びて時に之を習ふ」 →P42・98・144・185「季節のしおり」 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。 - P170の手順を読み、これまで学習した古典の文章の中から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。 ◇P42・98・144・185「季節のしおり」、P168「古典名作選」などを参考にさせてもよい。 - どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。 - 自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。 4 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 - 相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか、自分の言葉でまとめる。 - 論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 - 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。 - 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →古典の言葉を引用して、メッセージを書いている。 【思・判・表】「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。
7 価値を生み出す				
11月	それでも、言葉を 4時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・	1	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。 - 注意する語句を調べる。 - 納得したこと・共感したこと、わからないこと・疑問に感じたことなどの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読む。(課題1-①) →P135【カギ】「文章を批判的に読み、評価する」 ◇P177「筆者が担当するコラムから」を導入として授業の初めに読ませてもよい。 ◇本文を通読し終えたら、書き込んだ箇所を共有させるとよい。 「もっとよく理解したい。」「さらに掘り下げてみ	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えに

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	2-3 4	たい。」と感じたところをグループで出し合い、理解を深める課題を決める。(課題1-②) 2 筆者の見方・考え方に対する理解を深める。(課題2) ・グループで決めた課題について、言葉の意味を確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら話し合い、理解を深める。 →P179 言の葉 ◇まずは課題に対して個々で考えさせてからグループで意見を交流させる。 3 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。(課題3) ・筆者が用いた言葉を使って自分の考えをまとめ、発表する。 →P179 カギ「文章を読んで、自分の意見をもつ」 →P258 窓『『学びのカギ』一覧』(説明文) → 二次元コード「学びの地図」 ◇P177「筆者が担当するコラムから」を参考にさせてもよい。 4 学習を振り返る。 ・どのような事例を挙げて、抽象的な概念への理解を深めたか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者の見方・考え方に対する理解を深める中で、自分の考えはどのように深まり、広がったか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えを発表するときに、わかりやすさや説得力という観点で、納得のいく説明ができたと思う点を挙げる。	ついて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。 【態】言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。
12月	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 二年生までに学習した漢字を復習する。 ・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。 ◇同訓異字や同音異義の漢字を調べ、使い分けができるようにさせる。 2 三年生で学習した漢字を復習する。 ・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。 →P122「言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語」 →P250「語彙ブック」(慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語) →P317 窓「三年生で学習した音訓」 → 二次元コード「漢字一覧表」 ◇漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる。 ◇慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。 3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306 窓「三年生で学習した漢字」 →P317 窓「三年生で学習した音訓」 →P318 窓「常用漢字表」 → 二次元コード「漢字一覧表」 ◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の組み立てと部首、音訓、成り立ち、熟語の構成、同じ訓・同じ音をもつ漢字、送り仮名、熟語の読み方、漢字の造語力など、3年間で学習した漢字の内容を理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P183「[話し合い（進行）]話し合いを効果的に進めよう」 →二次元コード「会議を開く」 →P187カギ「合意を形成する」 →P188言の葉 →P260資「『学びのカギ』一覧」（話す・聞く） →P267資「話し合いの方法」 →P337資「ICT活用のヒント」 →二次元コード「学びの地図」 ◇提案が目的に合っているか、実現可能ななどの観点から分析させる。 ◇タブレット端末などを使用し、座標軸などで提案を可視化しながら整理させてもよい。 ◇話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、クラスで共有させてもよい。 4 合意形成のポイントを振り返る。 ・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。 ・どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか、自分の言葉でまとめる。 ・互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げる。 ◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
いつも本はそばに				
12月	本は世界への扉 天、共に在り 極夜行 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 教科書本文を読み、筆者の生き方について自分の考えをもつ。 ・作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合う。 ◇写真や本の一節、年表などを参考に、筆者に興味をもたせたり、世界で活動する人々について考えを広げさせたりする。 →二次元コード「漢字の練習」 2 P198「本の世界を広げよう」を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。 ・読書が自分の生き方や社会との関わりをどのように支えてきたか考える。 ◇これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさせるとよい。 →P86「読書を楽しむ」 →P88『私の一冊』を探しにいく →P94「本の世界を広げよう」 →P268資「二つの悲しみ」 →P272資「高瀬舟」	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、語り合ったりしている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、読んだ本や興味をもった本について語り合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 未来へ向かって				
1月	温かいスープ (2時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	◇「温かいスープ」「アラスカとの出会い」「律儀な桜」「わたしを束ねないで」は、4教材合わせて6時間配当となっている。学年やクラスの状況に応じて、軽重をつけたり一体的に扱ったりするなど、柔軟に扱うとよい。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。 ・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。 ◇脚注を参考に当時の世界状況を想像させ、感想を共有させる。 2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。 ・「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。 ◇「温かいスープ」という題名に込めた筆者の思いを想像させる。 3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。 ・筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の考えをもち、伝え合う。 ◇国際性の基本とは何か、文章中の語句を引用して自分の考えをまとめさせる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の考え方や作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	アラスカとの出会い (2時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇脚注を参考に筆者が経験したことや考えたことについて理解させる。 2 筆者の生き方や考え方を読み取る。 ・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取る。 ・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取る。 ・本文の語句を根拠に筆者のものの見方・考え方を読み取る。 ◇最後の段落に注目させ、筆者がこの文章を通して読者に伝えたかったことを考えさせる。 3 筆者の生き方や考え方について話し合う。 ・筆者の生き方や考え方について、自分の考えをもち、話し合う。 →P190「天、共に在り」 ◇最終段落の筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	律儀な桜 (1時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・時系列に注意しながら、筆者が経験したこと、考えたことなどについて理解する。 2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。 ・筆者のものの見方・考え方について、自分の考	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) わたしを束ねないで (1時間) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	えをもつ。 ◇最終段落や「律儀な桜」という題名に着目させ、筆者がどのようなことを考え、読者に何を伝えようとしているかを考えさせる。 ◇自分の知識や経験と比べながら、考えたことを文章にまとめさせる。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 ◇繰り返し使われている言葉や構成、表現技法などについて、気づいたことを話し合わせる。 2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。 ・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。 ◇詩の歴史的背景を確認させるとよい。 →P292資料「日本文学の流れ」	読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。 【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
1月	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする 5時間(話聞①書④) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを	1 2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 冊子のテーマを決める。 ・印象に残っている学習を思い出し、自分にとっての三年間の学びを総括するテーマを考える。 ◇教科書や学習記録を読み返したり、友達と話したりして、三年間の学習を振り返らせる。 ◇卒業文集や自分史をまとめる学習などに発展させてもよい。 2 冊子の内容と構成を考える。 ・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。 ・冊子全体と紙面の構成を考える。 ◇必要に応じて、見出しやキャッチコピー、レイアウトなどの例を示すとよい。 3 冊子を作る。 ・三年間の学びを冊子にまとめる。 4 グループで発表会を開く。 ・冊子の内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する(各3分)。 →P32「説得力のある構成を考えよう」 ・質疑応答をし、考えを深める(各2分)。	【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。 【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとして

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)		→P221 カギ「これからの学びを展望する」 →P223 言の葉 →P260 資『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く、書く) → 二次元コード「学びの地図」 5 学習を振り返る。 ・文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか、自分の言葉でまとめる。 ・記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げる。 ◇P220「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	いる。
2月	初日 漢字に親しもう 5 2 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・これまでの詩の読解を振り返る。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 ◇抽象的な表現や構成、表現技法などについて気づいたことを話し合わせる。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 ・詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、その内容について話し合う。 ◇詩の中の言葉を根拠として挙げながら、詩に描かれた情景や作者の思いを想像させる。 3 P226「漢字に親しもう 5」の練習問題に取り組む。 ・言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。 → 二次元コード「漢字一覧表」 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306 資「三年生で学習した漢字」 →P317 資「三年生で学習した音訓」 →P318 資「常用漢字表」 ◇漢字の音訓、部首、熟語の構成などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の内容について話し合おうとしている。 【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →音訓や部首、熟語の構成などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
学びを深める				
3月	国語の力試し 3時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 1 P243-246の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →二次元コード「国語の力試し」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせたほうが望ましい。 →二次元コード「国語の力試し（問題）」 2 2 P242の二次元コードから、発展問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 →二次元コード「国語の力試し」 3 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P119カギ「文学作品を批評する」 →P135カギ「文章を批判的に読み、評価する」 →P187カギ「合意を形成する」 →P55カギ「論理の展開を考える」 →P137カギ「論理の展開や表現を工夫する」 →P122「言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語」 →P146「和歌の世界」	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →ことわざや故事成語、四字熟語の意味や使い方を正しく理解している。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →歴史的仮名遣いに注意して和歌を読み、解釈しながら、親しんでいる。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →回想場面を織り込んだ展開のしかたとその効果について捉えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章に表れている筆者の言葉に対する見方や考え方について、自分の考えをもっている。 ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの内容を分析し、それぞれの発言がどのような役割を果たしているか、捉えている。 ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →意見と根拠、それらを結び付ける無理のない理由づけを示して、考えをまとめている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →ポスター作りの目的を意識しながら、資料の特徴をまとめている。 【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。	

教科	社会(歴史的分野)	学年	第1学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 私たちと歴史 歴史の流れをとらえよう	3	○「歴史すごろく」の活動を通して、小学校で学習した歴史上の人物や文化財について振り返り年表に整理する活動や、「人物カード」を作る活動を通して、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心を高める。 ○時代区分の方法や年代の表し方〔西暦・世紀・年号(元号)〕について理解し、年表の見方・表し方を身に付ける。	・課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。	・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえ、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	・私たちと歴史の活動を通して、歴史学習に向けて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
2節 身近な地域の歴史 身近な地域の歴史を調べよう	3	○身近な地域の歴史について、情報を収集したり、情報を整理し表現したりするなど、調べ学習の基礎を身に付ける。 ○諸資料や文化財を活用して、地域の歴史を多面的・多角的にとらえ、表現する。	課題を追究したり解決したりする活動を通して、自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。	課題を追究したり解決したりする活動を通して、比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界 1節 人類の出現と文明のおこり	5	○人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことや、宗教がおこったことを理解する。 ○それぞれの古代文明には、農耕や牧畜を基盤にして築かれたこと、文字の使用、国家がおこったことなど、共通する特色があることを理解する。	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、考古学の成果をはじめとする諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。	古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明の特色や宗教のおこりについて多面的・多角的に考察し、表現している。	人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第2章 原始・古代の日本と世界2節 日本の成り立ちと倭の王権	3	○日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしについて考える。 ○日本列島での農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。	日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。	農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、農耕の広まりによる人々の生活の変化や、大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本列島での人々の生活の変化と、国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界3節 大帝国の出現と律令国家の形成	3	○7～8世紀の世界では、東西に大帝國が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 ○日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。	律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、東アジアの動きが政治に与えた影響などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	7～8世紀の世界の動きや律令国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界4節 貴族社会の発展	4	○天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。 ○国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。	天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生み出されたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 中世の日本と世界1節 武家政治の始まり	5	○武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解する。 ○武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。	鎌倉幕府の成立、鎌倉時代の文化や仏教などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立したことなどを理解している。	武士の政治への進出と展開や、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。	武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配が全国に広まるとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた社会や文化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。

第3章 中世の日本と世界2節 ユーラシアの動きと武家政治 の変化	5	○13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸に広がるモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 ○南北朝の争乱や室町幕府の成立について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。	元軍の襲来や、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、元軍の襲来がユーラシアの変化の中で起こったことや、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。	モンゴル帝国(元)の拡大の様子や、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、この時代の武家政治の動きとその特徴や、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	武家政治の変化と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 中世の日本と世界3節 結びつく民衆と下剋上の社会	3	○応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 ○農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界1節 結びつく世界との出会い	4	○14～16世紀のヨーロッパでは、ルネサンスや宗教改革、アジアへの新航路の開拓などの動きがおこり、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に來航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、それが日本の社会に及ぼした影響について理解している。	交易の広がりとその影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、豊かな交易が行われていたアジアにヨーロッパ諸国が進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触がおこったことや、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の動きと関連付けながら、中世から近世への過渡期にある日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界2節 天下統一への歩み	3	○織田信長・豊臣秀吉による全国の統一事業や、朝鮮への出兵などの対外関係についてとらえ、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。	織田信長・豊臣秀吉による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。	統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世社会から近世社会への変化の様子や、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	信長・秀吉による統一事業により、近世社会の基礎がつくられていったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第4章 近世の日本と世界3節 幕藩体制の確立と鎖国	5	○江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子をとらえ、幕府の政治の特色について考える。 ○江戸幕府により、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府により全国を支配する仕組みが作られ、都市や農村における生活が変化したことや、安定した社会が構築されたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。	江戸幕府の成立と、幕藩体制による支配の確立について、よりよい社会の実現を視野にそでで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近世の日本と世界4節 経済の成長と幕政の改革	6	○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについてとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気づく。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりが、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	産業の発達と文化の担い手の変化や、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆がおこったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発達、教育の普及と文化の広がりが、農村の変化、江戸幕府の政治改革など、日本の近世社会の発展と変化について、よりよい社会の実現を視野にそでで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会1節 近代世界の確立とアジア	5	○欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させたことを理解する。 ○近代社会を成立させた欧米諸国が、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことについて考える。	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国が市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことについて、よりよい社会の実現を視野にそでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会2節 開国と幕府政治の終わり	3	○社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革についてとらえ、幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。 ○幕末の開国と、その政治的・社会的な影響について、欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。	開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、開国によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。	幕府が対外政策を転換して開国したことなどに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、開国が政治や人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国のアジア進出が日本の開国をもたらしたことや、開国の影響と江戸幕府の滅亡について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

第5章 日本の近代化と国際社会 3節 明治維新と立憲国家への歩み	7	○新政府による政治の改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについてとらえ、明治維新により近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ○自由民権運動や大日本帝国憲法の制定についてとらえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。	明治政府の諸改革の目的や、議会政治の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治政府の諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響や、現代の政治とのつながりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が形成されたことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
---	----------	--	---	--	--

教科	社会(地理的分野)	学年	第2学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章身近な地域の調査	3	場所などに着目して、課題を追突したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解できる。 (2) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けるようにする。 (3) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現できる。	①地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。	②対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に調査、考察している。	③対象地域の特色や課題を主体的に追究している。
第2章 日本の地域的特色	12	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信の項目」を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追突したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解できる。 (2) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解できる。 (3) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解できる。 (4) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解できる。 (5) 各項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解できる。 (6) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること。 (7) 各項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (8) 日本の地域的特色を、各項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。	②日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。	③自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。
第3章日本の諸地域 第1節 九州地方	6	自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追突したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 九州地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 九州地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、さまざまな情報を調べ、まとめている。	②九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	③九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。

第3章日本の諸地域 第7節 北海道地方	5	自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 北海道地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①北海道地方の冷涼な気候の特色を理解し、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。	②冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結び付きや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連付けて多面的・多角的に考察している。	③北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫に関心をもち、主体的に追究しようとしている。
第3章日本の諸地域 第2節 中国・四国地方	5	交通や通信を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 交通や通信を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 中国・四国地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結び付きの変化と、それに関連する産業や生活の変化について理解している。	②中国・四国地方の結び付きの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫などと有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	③中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に追究しようとしている。
第3章日本の諸地域 第4節 中部地方	6	産業を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 産業を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 中部地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①さまざまな資料を活用し、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取るとともに、それぞれの自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。	②中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。	③産業の視点からみた中部地方の特色について、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫・努力に関心をもちながら、主体的に追究しようとしている。
第3章日本の諸地域 第3節 近畿地方	5	環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 近畿地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全および、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。	②自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。	③近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。

第3章 日本の諸地域 第6節 東北地方	6	生活・文化を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 生活・文化を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 東北地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。	②東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりなどのように関わっているのか、多面的・多角的に考察している。	③東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に追及している。
第3章 日本の諸地域 第5節 関東地方	7	人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付けるようにする。 (1) 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 (2) 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解できる。 (3) 関東地方において中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。	①関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。	②関東地方に人口が集中する理由を、第3次産業の発達のほか、他地域や海外との結び付き、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。	③関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追及している。
第4部 地域の在り方 第1章 地域の在り方	3	空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けるようにする。 (1) 地域の実態や課題解決のための取組を理解できる。 (2) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解できる。 (3) 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	①解決に向けて考察・構想したことを適切に説明するとともに、地域の実態や課題解決の取り組みについて理解している。	②地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこでみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想している。	③地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域の在り方について関心をもち、主体的に追及している。

教科	社会(歴史的分野)	学年	第2学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4節 経済の成長と幕政の改革	7	○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについてとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気づく。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりや、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	産業の発達と文化の担い手の変化や、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆がおこったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発達、教育の普及と文化の広がり、農村の変化、江戸幕府の政治改革など、日本の近世社会の発展と変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章第1節 近代社会の確立とアジア	5	○欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させたことを理解する。 ○近代社会を成立させた欧米諸国が、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことについて考える。	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国が市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章第2節 開国と幕府政治の終わり	4	○社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革についてとらえ、幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。 ○幕末の開国と、その政治的・社会的な影響について、欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。	開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、開国によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。	幕府が対外政策を転換して開国したことなどに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、開国が政治や人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国のアジア進出が日本の開国をもたらしたことや、開国の影響と江戸幕府の滅亡について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

第5章 第3節 明治維新と立憲国家への歩み	7	○新政府による政治の改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについてとらえ、明治維新により近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ○自由民権運動や大日本帝国憲法の制定についてとらえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。	明治政府の諸改革の目的や、議会政治の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治政府の諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響や、現代の政治とのつながりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が形成されたことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第5章第4節 激動する東アジアと日清・日露戦争	6	○条約改正の歩みや日清・日露戦争についてとらえ、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と関わらせて理解する。 ○日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。	日清・日露戦争、条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。	議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本と世界との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	国際的な視野に立って、我が国の国際的な地位が向上したことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第5章 第5節 近代の産業と文化の発展	4	○産業革命により日本で近代産業が発展したこと、それによる社会の変化について理解する。 ○学問・教育・科学・芸術の発展を背景に、近代文化が形成されたことを理解する。	我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問や教育の発展について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第6章 第1節 第1次世界大戦と民族独立の動き	7	○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて理解する。 ○第一次世界大戦前後の国際情勢や、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、日本の動きと関わらせて理解する。	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。	世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦による世界と我が国の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第6章 第2節 大正デモクラシー	5	○政党政治の確立や民主主義思想の普及、社会運動の高まりについてとらえ、大正時代に国民の政治的自覚が高まったことを理解する。 ○都市化やメディアの発達などを背景に、文化の大衆化が進んだことを理解する。	我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、政党政治の展開や、社会運動の広まり、女性の社会的進出、大都市の発達や人々の生活様式や意識の変化を理解している。	世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、戦争による世界と我が国の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦前後の日本の政治・社会・文化における変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
---------------------	---	---	---	--	--

教科	社会(歴史的分野)	学年	第3学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章3節 明治維新と立憲国家の歩み 4節 激動する東アジアと日清日露戦争	9	○新政府による政治改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについてとらえ、明治維新により近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ○条約改正の歩みや日清・日露戦争についてとらえ、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係を関わらせて理解する。 ○日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。 を理解する。	○富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などをもとに、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。 ○第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、戦争の経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	○明治政府の諸改革の目的や、議会政治の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治政府の諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響や、現代の政治とのつながりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、二度目の世界大戦が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で、多面的・多角的に考察し、表現している。	○明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、立憲制の国家が形成されたことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。 ○第二次世界大戦の開戦から終結までの各国や日本の動き、そして、この大戦が及ぼした惨禍について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第6章 二度の世界大戦と日本 ・恐慌から戦争へ ・第二次世界大戦と日本の敗戦	11	・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目させながら、経済の混乱、軍部の台頭、戦争の経緯と対戦の惨禍を理解させる。 ・戦時下の国民生活をなるべく身近に感じさせるとともに、戦争の惨禍にも目を向けさせ、関心や態度を養う。	・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)からカまでについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	・近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第7章 現代の日本と世界	14	・第二次世界大戦後の、日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解させる。 ・高度経済成長以降から現在までの日本と世界の動きの概要を、国民の生活と関連させて理解させる。 ・国際社会における日本の役割や、地域社会における個人の取り組みなどに関心を持たせるとともに、将来の社会に期待をいだかせ、社会の一員としての自覚を持たせる。	・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解している。 ・高度経済成長、国際社会との関り、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	・東西対立の両陣営の立場について比較し、自分の意見を述べている。 ・戦後日本の政策の転換を、当時の情勢などを踏まえて判断し、自分の意見を述べている。 ・高度経済成長がもたらした国民生活の向上という側面と公害問題などの負の側面とを公正に判断している。 ・現代社会の発展だけではなく、問題点についても公正に判断し、自分の意見を述べている。	・戦後の日本の歩みや高度経済成長期における各家庭の出来事と関連する日本や世界の歴史に関心を持っている。 ・冷戦終結から現在に至るまでの各家庭の出来事とかわる、日本や世界の歴史に関心を持っている。 ・これからの日本や日本人について社会の一員としての自覚に立って考えていこうとする意欲を高めている。

第7章 現代の日本と世界 日本の民主化と冷戦 世界の多極化と日本 冷戦の終結とこれからの日本	12	・第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について理解する。 ・冷戦の始まりや朝鮮戦争などの世界の動きのなかで、新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ・ベトナム戦争や中東戦争などの世界の動きを背景に、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、安保改定・沖縄返還・日中国交正常化などの国際社会との関わりのなかで理解する。 ・日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。 ・冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについてとらえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解する。 ・環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることに気づき、これからの未来をひらくためにどのように社会と関わればよいのか考える。	・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ・高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 ・冷戦の終結、国際社会との関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	・戦後の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、諸改革が日本の社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、国民生活への影響と国際平和の実現への努力などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	・国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・冷戦下の国際社会の中における日本の変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
---	-----------	---	---	---	--

教科	社会(公民的分野)	学年	第3学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 私たちの暮らしと現代社会	9	○自分たちが生きる現代社会に関心を持ち、持続可能な社会を形成するためにどうすればよいか考えさせる。 ○地理的分野や歴史的分野の学習内容と関連させながら、現代社会の特色について多面的・多角的に考察させ、それを自分の言葉で表現させる。 ○様々な写真や統計資料などから、グローバル化、少子高齢化、情報化の意味と影響について読み取り、理解させる。 ○グローバル化、少子高齢化、情報化が政治、経済、国際関係に影響を与えていることや、それらが互いに関連し、影響し合っていることについて、具体的な事例を基に気付かせる。	○現代社会の特色としてグローバル化、少子高齢化、情報化があることを理解し、その知識を身に付けている。 ○現代社会における文化の意義や影響について理解している。 ○現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正について理解している。 ○人間は本来社会的存在であることをもとに、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。	○位置や空間的な広がり、水位や変化に着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○対立と合意、効率と公正に着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会の関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ○現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2章 個人を尊重する日本国憲法	17	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。 ○民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。 ○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。 ○日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。 ○日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。 ○人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 ○民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 ○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 ○日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第3章 私たちの暮らしと政治	18	○国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解する。 ○議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方について理解する。 ○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保証があることについて理解する。 ○地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。 ○民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	○国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解している。 ○議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方について理解している。 ○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保証があることについて理解している。 ○地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

第4章 私たちの暮らしと経済	17	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。 ○市場経済の基本的な考え方について理解する。 ○現代の生産や金融などのしくみやはたらきを理解している。 ○勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の精神について理解している。 ○財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 ○市場経済の基本的な考え方について理解している。 その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。 ○現代の生産や金融などのしくみやはたらきを理解している。 ○勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。 ○財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○市場のはたらきと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第5章 安心して豊かに暮らせる社会	8	○社会資本の整備、公害の防止など環境の保全。少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解する。 ○市場のはたらきに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。 ○国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	○社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場のはたらきに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第6章 国際社会に生きる私たち	14	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土、国家主権、国際連合のはたらきなど基本的な事項について理解する。 ○地球環境、資源、エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。 ○日本国憲法の平和主義をもとに、日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土、国家主権、国際連合のはたらきなど基本的な事項について理解している。 ○地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義をもとに、日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。	○章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かす事柄を見出そうとしている。 ○世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
終章 私たちが未来の社会を築く	3	○私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること。 ○私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養う。		○社会的な見方・考え方をはたらかせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。	○私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

教科	数学	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ [整数の性質]	3	- 九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。 - 自然数をいくつかの数の積で表すことによる、素因数分解の意味を理解する。 - 素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	- 自然数をいくつかの数の積で表すと、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかがわかることを理解している。 - 素因数分解の意味を理解している。 - 素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	- 九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。 - 九九表を縦2ます、横2ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を考え、説明することができる。 - 九九表の数を素因数分解した結果から、九九表の数が1と素数の2, 3, 5, 7の積だけでつくられていることを見だし、説明することができる。	自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
1章 数の世界を広げよう [正負の数]	25	- 正負の数の必要性和意味を理解する。 - 正負の数の四則計算をできるようにする。 - 身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	- 正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結び付けて理解している。 - 正の数と負の数の四則計算をすることができる。 - 具体的な場面で正負の数を使って表したり処理したりすることができる。	- 算数で学習した四則計算と関連付けて、正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 - 身のまわりの具体的な場面で、正負の数を利用して解決することができる。	- 正負の数の必要性和意味を理解し、良さに気付いて粘り強く考える。 - 正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
2章 数学のことばを身につけよう [文字と式]	18	- 文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 - 文字を使った式の規約を理解し、それに沿って計算ができるようにすること。 - 等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読み取ったりすることができる。	- 文字を用いることの必要性和意味を理解している。 1次式の四則の計算方法を理解し、計算ができる。 - いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読み取ったりすることができる。 - 数量の間の関係を等式や不等式で表し、読み取ることができる。	具体的な場面と関連づけて、1次式の加法・減法の計算方法を考え、説明することができる。	文字を用いることよきに気付いて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
3章 未知の数の求め方を考えよう [方程式]	14	- 求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。 - 方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して解を求めたり、等式の性質を使って方程式を解いたりすることができる。 - 具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	- 方程式とその解の意味、必要性を理解している。 - 等式の性質や移項の意味を理解し、それらを使って方程式を解くことができる。	- 等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見だし、説明することができる。 1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。	1次方程式のよきに気付いて粘り強く考えることができる。 - 方程式を生活や学習の具体的な問題の解決に利用しようとしている。 - 方程式を活用した問題解決の過程を振り返ってその手順を検討しようとしている。

4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう[比例と反比例]	14	・身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ・関数の意味を理解する。 ・具体的な事象の中から2つの数量に着目し、それらの変化や対応を表、グラフ、式を用いて調べることによって関数関係を明らかにする。また、問題解決に活用できるようにする。 ・身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。	○関数関係の意味を理解している。 ○比例・反比例について理解している。 ○座標の意味を理解している。 ○比例・反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。	○比例・反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係を比例とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	○比例・反比例のよさに気付いて粘り強く考えている。 ○関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。 ○反比例について学んだことを生かして、問題解決の過程を振り返り検討しようとしている。
5章 平面図形の見方をひろげよう[平面図形]	17	・平行移動、回転移動、対称移動の意味とその性質を理解する。 ・2つの合同な図形の間を移動の見方で捉え、説明することができる。 ・作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ・垂線、垂直二等分線、角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ・身のまわりにあるものを円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解し、弧の長さや面積を求めることができる。	○平行移動、対称移動、回転移動の意味とその性質を理解し、ある図形を移動させた図形をかくことができる。 ○垂線、垂直二等分線、角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。	○図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察表現し、表現することができる。 ○図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現することができる。 ○基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。	○平面図形の性質や関係を捉えることのよさに気付いて粘り強く考えようとしている。 ○移動や作図やおうぎ形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
6章 立体の見方をひろげよう[空間図形]	18	・3次元空間での事象に関する問題を、具体的な空間図形の問題として捉える。 ・空間図形の問題を解決するために都合の良い模型を作り、いろいろな向きから観察する。 ・解決に都合のよい平面図形を見だし、目的に応じて見取図や展開図、投影図などに表す。平面上に表された空間図形の性質を読みとる。	○空間内にある平面や直線の位置関係を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積、基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を表面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすることができる。 ○立体図形の表面積や体積の求め方を考察し、表現することができる。	○空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ○学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
7章 データを活用して判断しよう[データの分析と活用]	10	・既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ・データを度数分布表やヒストグラム、相対度数の折れ線グラフに表し、分布の特徴を読み取り、説明することができる。 ・相対度数の必要性和意味を理解する。 ・代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 ・不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解し、それらを用いてデータを整理することができる。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。	○既習のデータの整理や分析の方法および、多数回の試行によって得られる確率についてのよさに気付いて、粘り強く考えようとしている。 ○既習のデータの整理や分析の方法および、多数回の試行によって得られる確率について学んだことを問題解決に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

教科	数学	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 文字式を使って説明しよう [式の計算]	15	・身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、文字を用いて一般的に表す必要性を理解する。 ・単項式と多項式、次数の意味を理解する。また、四則計算もできるようにする。 ・具体的な数の性質をもとに数の性質を見だし、その性質が成り立つことを、文字を使って一般的に説明できることを理解する。 ・目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。	○文字を使うと、数量を一般的に表すことができることを理解している。 ○簡単な整式の四則計算をすることができる。 ○文字を使って数量を表したり、説明することがらに合わせて文字式を変形したりすることができる。 ○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解している。	○既習の計算方法と関連付けて、2つの文字をふくむ多項式と数の乗法や除法の計算を考え、説明することができる。 ○文字を使った説明を読んで新たな性質を見いだしたり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考え説明したりすることができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。 ○文字式にいて学んだことを、生活や学習に生かそうとしている。 ○文字式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
2章 方程式を利用して問題を解決しよう[連立方程式]	12	・求めたい数量が2つある問題を、既習の1元1次方程式などを活用して解決することができる。 ・2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解し、様々な方法で解けるようにする。 ・具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式とその解の意味を理解している。 ○簡単な2元1次方程式を解くことができる。	○1元1次方程式などを活用して、2元1次方程式を解く方法を考察し表現できる。 ○連立2元1次方程式を具体的な場面で活用することができる。	○連立2元1次方程式のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数]	19	・具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。 ・1次関数の意味を理解し、$y=ax+b$の式に表すことができる。 ・連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。	○1次関数の意味を理解し、$y=ax+b$の式に表すことができる。 ○事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ○2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。	○1次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ○1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	○1次関数のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○1次関数で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
4章 図形の性質の調べ方を考えよう[平行と合同]	15	・多角形の内角の和の求め方を説明することができる。 ・角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。 ・平面図形の合同の意味と合同な図形の性質を理解する。 ・根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。	○平行線や角の性質を理解している。 ○多角形の角についての見いだせることを知っている。 ○多角形の外角の和の性質は、多角形の内角の和をもとにして見いだせることを理解している。 ○平面図形の合同の意味と表し方を理解している。 ○証明の必要性和意味を理解している。	○基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。	○平面図形や証明のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○平面図形や証明で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○平面図形や証明を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。

5章 図形の性質を見つけよう [三角形と四角形]	21	・演繹的な推論の意味や方法を理解し、三角形や四角形の性質を調べる。 ・定義や定理、および定理の逆の意味や、仮定、結論を明らかにして証明することの意味を理解する。	○二等辺三角形や直角三角形、平行四辺形の定義や性質を理解している。 ○三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。	○三角形の合同条件や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。	○三角形や四角形のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○三角形や四角形で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○三角形や四角形を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率]	9	・多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 ・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味及び確率の求め方を理解する。 ・身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味及び確率の求め方を理解している。 ○簡単な場合について確率を求めることができる。	○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考え、説明することができる。 ○確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。	○確率のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○確率で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
7章 データを比較しよう [データの比較]	5	・複数のデータの分布の傾向を比較するとき、ヒストグラムでは比較しにくいことを知る。 ・箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。また、箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。 ○パソコンなどの手段を用いて、データを整理し、箱ひげ図に表すことができる。	○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

教科	数学	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 文字式を使って説明しよう	19	・具体的な問題を、文字式とその計算を利用して解決することを通して、文字のよさを理解する。 ・数の性質や図形が成り立つことを、文字を使って証明することができる。	○単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ○簡単な1次式の乗法の計算及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。	○すでに学習した計算方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現できる。 ○文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	○式の展開や因数分解のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○式の展開や因数分解で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○式の展開や因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
2章 数の世界をさらに広げよう [平方根]	16	・数の平方根の必要性和意味を理解し、計算できるようにする。 ・数の平方根を具体的な場面で活用することができる。 ・計算方法を、既習内容を用いて考察できるようにする。	○数の平方根の必要性和意味を理解している。 ○数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。平方根の意味を理解し、ある数の平方根を求めることができる。 ○具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。	○すでに学習した計算方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算方法を考察し表現できる。 ○数の平方根を具体的な場面で活用することができる。	○数の平方根の必要性和意味を考えようとしている。 ○既習の計算法則などを、根号をふくむ式の計算に生かそうとしている。 ○数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3章 方程式を利用して問題を解 決しよう [2次方程式]	15	・二次方程式の必要性和意味を理解する。 ・因数分解や解の公式を利用して、二次方程式を解けるようにする。 ・既習内容を基に二次方程式の解き方を考察し表現する。 ・二次方程式を具体的な場面で活用する。	○二次方程式の必要性和意味を理解する。 ○因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くことができる。 ○解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くことができる。	○因数分解や平方根の考え方を基にして、二次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 ○二次方程式を具体的な場面で活用することができる。	○二次方程式のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○二次方程式で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○二次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
4章 関数の世界をひろげよう [関数 $y=ax^2$]	17	・関数$y=ax^2$について理解する。 ・事象の中には関数$y=ax^2$として捉えられるものがあることを知ること。 ・いろいろな事象の中に関数関係があることを理解すること。 ・数$y=ax^2$として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・関数$y=ax^2$を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現することができる。	○関数$y=ax^2$について理解している。 ○事象の中には関数$y=ax^2$として捉えられるものがあることを知っている。 ○いろいろな事象の中に関数関係があることを理解している。	○関数$y=ax^2$として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ○関数$y=ax^2$を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現することができる。	○関数$y=ax^2$のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○関数$y=ax^2$で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数$y=ax^2$を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。

5章 形に着目して図形の性質を調べよう [相似な図形]	23	・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解する。 ・基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係を理解する。 ・三角形の相似条件を基に、図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。	○平面図形の相似の意味と表し方を理解している。 ○基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係を理解している。	○三角形の相似条件を基に、図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ○平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 ○相似な図形の具体的な場面で活用することができる。	○相似な図形のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○相似な図形で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○相似な図形を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
6章 円の性質を見つけて証明しよう [円]	10	・円周角と中心角の関係を見だし、意味を理解し、それが証明できることを知る。 ・円周角と中心角の関係を見いだす。 ・円周角と中心角関係を具体的な場面で活用する。	○円周角と中心角の関係を見だし、意味を理解し、それが証明できることを知っている。	○円周角と中心角の関係を見だし、証明について、構想を立てることができる。 ○直径と円周角の定理を具体的な場面で活用することができる。	○円周角と中心角のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○円周角と中心角で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○円周角と中心角を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
7章 三平方の定理を活用しよう [三平方の定理]	13	・三平方の定理の意味を理科し、それが証明できることを知ること。 ・三平方の定理を見いだすこと。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用すること。	○三平方の定理の意味を理科し、それが証明できることを知っていること。	○三平方の定理を見いだすことができる。 ○三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	○三平方の定理のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○三平方の定理で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。
8章 集団全体の傾向を推測しよう [標本調査]	6	・標本調査の意味と必要性を理解すること。 ・パソコンなどの情報手段を用いて、無作為に標本を取り出し、整理すること。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断すること。	○標本調査の意味と必要性を理解している。 ○パソコンなどの情報手段を用いて、無作為に標本を取り出し、整理することができる。	○標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ○簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断ができる。	○標本調査のよさを実感し。粘り強く考えようとしている。 ○標本調査で、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。

教科	理科	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【単元1】第1章 生物の観察と分類のしかた	6	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の観察と分類のしかたについての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	生物の観察と分類のしかたに関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元1】第2章 植物の分類	9	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、植物のからだの共通点と相違点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身近な植物についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・植物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、植物のからだの共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	植物のからだの共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	植物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元1】第3章 動物の分類	9	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、動物のからだの共通点と相違点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身近な動物についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・動物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、動物のからだの共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	動物のからだの共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	動物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元2】第1章 身のまわりの物質とその性質	7	・身のまわりの物質をさまざまな方法で調べる実験を通して、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。(知識・技能) ・身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・物質のすがたに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のすがたについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元2】第2章 気体の性質	4	・気体を発生させてその性質を調べる実験を通して、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。(知識・技能) ・身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・物質のすがたに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のすがたについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元2】第3章 水溶液の性質		・水溶液から溶質をとり出す実験を通して、その結果を溶解度と関連づけて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・水溶液に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	水溶液に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元2】第4章 物質の姿と状態変化	6	・物質の状態変化についての観察、実験を通して、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。また、物質は融点や沸点をさかいに状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を通して、沸点のちがいによって物質の分離ができることを見いだして理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・状態変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	状態変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元3】第1章 光の世界	10	・光についての観察、実験を通して、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性や、凸レンズのはたらきについての実験から、物質の位置と像の位置および像の大きさの関係を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・光について問題点を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の性質の規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・光に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきなどについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	光について問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきから規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	光に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元3】第2章 音の世界	5	・音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝えることや、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・音について問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・音に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	音について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	音に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元3】第3章 力の世界	8 ・物体に力をはたらかせる観察、実験を行い、物体に力がかかることと物体が変形したり動き始めたり、運動のようすが変わったりすることや、力は大きさと向きによって表されること、物体にはたらく2力のつり合う条件を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・力について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・力のはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	力のはたらきに関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、力のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力のはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	力のはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元4】導入観察 身近な地形や地層、岩石の観察	2 ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層、岩石の観察についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・身近な地形や地層、岩石の観察について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層、岩石の観察についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	身近な地形や地層、岩石の観察について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元4】第1章 火をふく大地	6 ・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩、自然のめぐみと火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・火山、自然のめぐみと火山災害について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地下のマグマの性質と火山の形との関係性、自然のめぐみと火山災害の火山活動のしくみとの関係性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・火山、自然のめぐみと火山災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩、自然のめぐみと火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	火山、自然のめぐみと火山災害について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地下のマグマの性質と火山の形との関係性、自然のめぐみと火山災害の火山活動のしくみとの関係性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	火山、自然のめぐみと火山災害に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元4】第2章 動き続ける大地	5	・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・地震、地震災害について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地震の原因と地球内部のはたらきとの関係性、地震災害と地震発生のしくみとの関係性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・地震、地震災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地震、地震災害について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地震の原因と地球内部のはたらきとの関係性、地震災害と地震発生のしくみとの関係性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	
【単元4】第3章 地層から読みとる大地の変化	9	・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地層の重なりと過去のようすについて基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・地層の重なりと過去のようすについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・地層の重なりと過去のようすに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地層の重なりと過去のようすについて基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地層の重なりと過去のようすについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	

教科	理科	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章生物と細胞	7	○生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○生物と細胞に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第2章植物のからだとつくりと働き	10	○植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○植物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○植物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○植物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

第3章動物のからだのつくりと働き	10	○動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○動物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第4章刺激と反応	10	○動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○刺激と反応に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章物質の成り立ち	8	○物質を分解する実験を通して、分解して生成した物質はもとの物質とは異なることを見いだして理解する。また、物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。	○化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化、化学変化における酸化と還元、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的技能を身に付けている。	○化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における、物質の変化を見出して表現しているなど、科学的に探究している。	○物質の成り立ちに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第2章物質どうしの化学変化	10	○2種類の物質を反応させる実験を通して、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること、化学変化は化学反応式で表されることを理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。	○化学変化と原子や分子のモデルと関連付けながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	○化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を提案して、観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見出して表現しているなど、科学的に探究している。	○化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返るなど、科学的に探究しようとしている。

第3章酸素が関わる酸化	10	○酸化や還元の実験を通して、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化における酸化と還元についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	○化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第4章化学変化と物質の質量	10	○化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を通して、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解する。また、化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を通して、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	○化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第5章化学変化とその利用	5	○化学変化によって熱をとり出す実験を通して、化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	○化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	○化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章気象の観測	10	○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら,気象要素,気象観測,霧や雲の発生などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに,それらの観察・実験の技能を身につける。	○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら,気象要素,気象観測についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○気象観測について見通しをもって解決する方法を立案して観察,実験などを行い,その結果を分析して解釈し,天気の変化についての規則性や関係性を見出して表現しているなど,科学的に探究している。	○気象観測に関する事物・現象に進んで関わり,見通しをもったり振ったりするなど,科学的に探究しようとしている。
第2章雲のでき方と前線	10	○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら,霧や雲の発生,前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに,それらの観察・実験の技能を身につける。	○気象要素と天気の変化と関係性に着目しながら,霧や雲の発生,前線の通過と天気の変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する基本操作や記録などに関する基本的な技能を身に付けている。	○天気の変化について,見通しをもって解決する方法を立案して観察,実験などを行い,その結果を分析して解釈し,天気の変化についての規則性や関係性を見出して表現しているなど,科学的に探究している。	○天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり,見通しをもったり振り返ったりするなど,科学的に探究しようとしている。

第3章大気の動きと日本の天気	10	○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然のめぐみと気象災害などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。	○気象要素と天気の変化との関係性に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の動きと海洋の影響についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○日本の気象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、日本の気象についての規則性や関係性を見出して表現しているなど、科学的に探究している。	○日本の気象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
----------------	----	--	---	---	---

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章静電気と放電	10	○静電気の性質および静電気と電流には関係があること、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。また、静電気と放電を関連させ、放射線の性質と利用について理解する。	○電流に関する事物現象を日常生活や社会と関連付けながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギー、静電気と電流についての基本的な概念や、原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的操作や記録などの基本的技能を身に着ける。	○電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法立案して観察、実験などをおこない、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらき、静電気の規則性や関係性を見出して表現しているなど、科学的に探究している。	○電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第2章電流の性質	10	○電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身につけるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。	○電流と磁界に関する事物・現象日常生活や社会と関連付けながら、電流が作る磁界、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に着けている。	○電流と磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などをおこない、その結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見出して表現するなど、科学的に探究している。	○電流と磁界に関する事物・現象日常生活や社会と関連付けながら、電流が作る磁界、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に着けている。

第3章電流と磁界	10	○磁界と磁力線との関係，電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察，実験を通して理解するとともに，それらの観察，実験の技能を身につける。	○電流と磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら，磁界と磁力線との関係，電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察，実験を通して理解しているとともに，科学的に探究するために必要な基礎操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	○電流と磁力線との関係，電流の磁気作用について見通しをもって観察，実験などを行い，実験結果を分析して解釈し，電流と磁界の関係性を見いだして表現するなど，科学的に探究している。	○電流と磁界に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
----------	----	---	--	---	--

教科	理科	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【単元1】化学変化とイオン 第1章 水溶液とイオン	8	・水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子のなり立ちに関係することを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うと	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、原子のなり立ちとイオンについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元1】化学変化とイオン 第2章 酸、アルカリとイオン	10	・酸とアルカリの性質を調べる実験を通して、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。また、中和反応の実験を通して、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、酸・アルカリ、中和と塩についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元1】化学変化とイオン 第3章 化学変化と電池	10	・金属を電解質水溶液に入れる実験を通して、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解する。また、電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を通して、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・化学変化と電池に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、金属イオン、化学変化と電池についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化と電池について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	化学変化と電池に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元2】生命の連続性 第1章 生物の成長と生殖	10	・生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の成長とふえ方について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・生物の成長とふえ方について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の成長とふえ方についての特徴や規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・生物の成長とふえ方に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)	生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら、細胞分裂と生物の成長、生物のふえ方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の成長とふえ方について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長とふえ方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	生物の成長とふえ方に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元2】生命の連続性 第2章 遺伝の規則性と遺伝子	9	・遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・遺伝の規則性と遺伝子について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、遺伝の規則性と遺伝子についての特徴や規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るこ	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特性や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元2】生命の連続性 第3章 生物の多様性と進化	7	・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・生物の種類の多様性と進化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るこ	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の種類の多様性と進化について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元3】運動とエネルギー 第1章 物体の運動	10	・物体に力がはたらく運動および力がはたらかない運動についての観察、実験を行い、物体の運動には速さと向きがあること、力がはたらく運動では運動の向きや時間の経過にともなって物体の速さが変わること、および、力がはたらかない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身につける。(知識・技能) ・物体の運動について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・物体の運動に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究する態度を養うとともに、自	運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元3】運動とエネルギー 第2章 力のはたらき方	8	・2つ以上の力がはたらく状況の観察, 実験を通して, 合力や分力の規則性や, 物体にはたらく力と物体の運動の関係を理解するとともに, それらの観察, 実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・力のはたらきと物体の運動の関係性について問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 力のはたらきと物体の運動の規則性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・力のはたらきと物体の運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり, 科学的に探究しようとする態度を養うとともに, 自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)	力のつり合いと合成・分解, 運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら, 水中の物体にはたらく力, 力の合成・分解, 力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力のつり合いと合成・分解, 運動の規則性について, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を分析して解釈し, 力のつり合いと合成・分解, 運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに, 探究の過程をふり返るなど, 科学的に探究している。	力のつり合いと合成・分解, 運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり, 見通しをもったりふり返ったりするなど, 科学的に探究しようとしている。
【単元3】運動とエネルギー 第3章 エネルギーと仕事	13	・仕事に関する観察, 実験を行い, 仕事と仕事率について理解する。また, 力学的エネルギーに関する観察, 実験を行い, 物体のもつ力学的エネルギーは物体がほかの物体になしうる仕事で測れること, 運動エネルギーと位置エネルギーは相互に移り変わることを, 力学的エネルギーの総量は保存されることなどを見いだして理解するとともに, それらの観察, 実験の技能を身につける。(知識・技能) ・運動とエネルギーについて, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を分析して解釈し, 力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現する。また, 探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり, 科学的に探究する態度を養うとともに, 自然	力学的エネルギーを日常生活や社会と関連づけながら, 仕事とエネルギー, 力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力学的エネルギーについて, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を分析して解釈し, 力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに, 探究の過程をふり返るなど, 科学的に探究している。	力学的エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり, 見通しをもったりふり返ったりするなど, 科学的に探究しようとしている。

【単元4】地球と宇宙 プロローグ 星空をながめよう	2	・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や太陽の表面のようすについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・月や太陽、恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ること	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や太陽の表面のようすについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	月や太陽、恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元4】地球と宇宙 第1章 地球の運動と天体の動き	10	・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んでかかわり科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元4】地球と宇宙 第2章 月と金星の見え方	7	・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・月や金星の運動と見え方について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・月や金星の運動と見え方に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ること	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	月や金星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	月や金星の運動と見え方に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元4】地球と宇宙 第3章 宇宙の広がり	7	・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽系と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・太陽系と恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。(思考・判断・表現) ・太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽系と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	太陽系と恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元5】地球と私たちの未来のために 第1章 自然のなかの生物	6	・日常生活や社会と関連づけながら、自然界のつり合いについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身近な自然環境を調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全のあり方について、科学的に考察して判断する。(思考・判断・表現) ・生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	日常生活や社会と関連づけながら、自然界のつり合いについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物と環境について、身近な自然環境などを調べる観察、実験などを行い、自然環境保全のあり方について、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元5】地球と私たちの未来のために 第2章 自然環境の調査と保全	6	・日常生活や社会と関連づけながら、自然環境の調査と環境保全について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・身近な自然環境を調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全のあり方について、科学的に考察して判断する。(思考・判断・表現) ・生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	日常生活や社会と関連づけながら、自然環境の調査と環境保全についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物と環境について、身近な自然環境などを調べる観察、実験などを行い、自然環境保全のあり方について、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元5】地球と私たちの未来のために 第3章 科学技術と人間	7	・人間は水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識する。また、物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、さまざまな物質が幅広く利用されていることを理解するとともに、物質の有効な利用が大切であることを認識する。さらに、科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) ・日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術のあり方について、科学的に考察して判断する。(思考・判断・表現) ・エネルギーと物質に関する事物・現象、自然環境の保全と科学技術の利用に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることで	日常生活や社会と関連づけながら、エネルギーとエネルギー資源、さまざまな物質とその利用、科学技術の発展、自然環境の保全と科学技術の利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈したり、自然環境の保全と科学技術の利用について、観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察して判断したりするなど、科学的に探究している。	エネルギーと物質に関する事物・現象、自然環境の保全と科学技術の利用に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【単元5】地球と私たちの未来のために 地域とつながる 自然災害と地域のかかわりを学ぶ	4	・日常生活や社会と関連づけながら、地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察して判断する。(思考・判断・表現) ・環境に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることで	日常生活や社会と関連づけながら、地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	地域の自然災害に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり、ふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【単元5】地球と私たちの未来のために 終章 持続可能な社会をつくるために	6	・日常生活と社会とを関連づけながら、科学技術が人々の生活を豊かにし、人間の経済活動が環境に変化をあたえていることを理解するとともに、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識し、そのための科学的調査の技能を身につける。(知識・技能) ・多様な情報からエネルギーや資源、自然環境についての問題を見だし、調査や文献などの科学的知見を分析し、経済活動と環境保全のあり方について、科学的に考察して判断する。(思考・判断・表現) ・義務教育段階の理科をふり返り、科学の有効性を判断し、環境に関する科学的調査を計画し、	経済活動と資源、環境を関連づけながら、生物相の変化、資源の減少などを理解し、それに対する科学技術や社会的とり組みから、持続可能な社会に向けた行動判断のもとになる科学的調査(文献調査もふくむ)の技能を身につけている。	資源・環境の持続性について問題を見だし、身のまわりの調査活動をレポートにまとめ、科学的に考察して、持続可能な社会に向けての行動を判断している。	これまでの理科学習について進んでふり返り、持続可能な社会の実現案を出すための探究を計画し、科学的に探究しようとしている。
---	----------	---	--	--	---

教科	音楽	学年	第1学年
----	----	----	------

内容のまとまり	時数	内容のまとまりの到達目標	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	体的に学習に取り組む態
「A表現」(1) 歌唱 及び〔共通事項〕	17	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
「A表現」(2) 器楽 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

「A表現」(2)創作 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付けるようにする。	・音のつながり方の特徴について理解している。 ・音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 ・創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕	8	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、その他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている ・。曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。 ・生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科	音楽	学年	第2学年
----	----	----	------

内容のまとめり	時数	内容のまとめりの到達目標	単元のまとめりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「A表現」(1) 歌唱 及び〔共通事項〕	17	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 ・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
「A表現」(2) 器楽 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

「A表現」(2)創作 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付けるようにする。	・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について理解している。 ・音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 ・創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕	8	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国族の音楽の様々な特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている ・曲や演奏に対する評価とその根拠について、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。 ・生活や社会における音楽の意味や役割について、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・音楽表現の共通性や固有性について、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科	音楽	学年	第3学年
----	----	----	------

内容のまとまり	時数	内容のまとまりの到達目標	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	体的に学習に取り組む態
「A表現」(1) 歌唱 及び〔共通事項〕	17	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 ・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
「A表現」(2) 器楽 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付けるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

「A表現」(2)創作 及び〔共通事項〕	5	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付けるようにする。	・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について理解している。 ・音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 ・創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕	8	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な鑑賞の技能を身に付けるようにする。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解し、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・曲想と音楽の構造の関わりについて理解している。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国族の音楽の様々な特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている ・曲や演奏に対する評価とその根拠について、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。 ・生活や社会における音楽の意味や役割について、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・音楽表現の共通性や固有性について、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科	美術	学年	1 学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標	知識技能	単元のまとまりの評価規準 思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「絵画基礎」 ・絵画の基礎 ・クロッキー ・デッサン	13	身近にあるものを見つめ、形や色彩、質感などの特徴を捉えたりして主題を生み出し、構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。	【知識】 形や色彩、明暗、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさ、印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 線の強弱などの鉛筆や生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	【発想】 身近なものを見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく身近なものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A 表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「色」 ・色の基礎 ・色の応用	12	感情やイメージなどを形や色彩などで表すことに関心を持ち、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、形や色彩、構成などの効果を考え材料の特性を生かして創造的に絵や立体で表す。	【知識】 ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 【技能】 ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すことができる。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すことができる。	【発想】 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。	【表現】 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、表現及び鑑賞の活動を通して心かな生活を創造していく態度を養おうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「デザイン」 ・デザインについて ・ロゴマーク	8	イメージや伝えたい内容が相手に分かりやすく伝わるよう、形や色彩、構成を考え、機能などを工夫して文字をデザインする。	【知識】 文字や文字が意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、伝達する内容を全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 機能の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持って表している。	【発想】 文字の意味やイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現する構想を練っている。 【鑑賞】 文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく意味や美しさなどを生かして文字をデザインするなど伝達のデザインの目的や機能を考えて構想を練ったり、意図に応じて工夫し見通しを持って表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「工芸」 ・伝統工芸について	10	・工芸作品や技の素晴らしさに関心を持ち、形や色彩、材料、技法、作風や印象などを捉え、人の手による技の素晴らしさや作品の美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める。 ・材料の特性や機能性を生かしてつくることに関心を持ち、材料のよさや美しさ、使う場面や機能などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし、見通しを持ってデザインし表す。	【知識】 材料の特性や質感、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や加工方法を基に、材料の持ち味を全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。	【発想】 材料のよさや美しさなどを基に、使う場面や機能などから主題を生み出し、使いやすさや機能と材料の特性や効果などとの調和を総合的に考え、表現する構想を練っている。 【鑑賞】 使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に材料の特性や機能性などを生かしてつくことを考えて構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕	2	写真表現の特性を生かして表すことに関心を持ち、被写体の印象の魅力から主題を生み出す。	【知識】 写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴	【発想】 被写体の印象などを基に主題を生み出し、構図や効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題などを基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水

教科	美術	学年	2学年
----	----	----	-----

単元名	時数	単元の到達目標	単元のまとまりの評価規準		
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「絵画応用」 ・絵画の表現	8	感情やイメージなどを形や色彩などで表すことに関心を持ち、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、形や色彩、構成などの効果を考え材料の特性を生かして創造的に絵や立体で表す。	【知識】 形や色彩が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、形や色彩の組み合わせを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 絵の具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	【発想】 感情やイメージなどの心の世界を基に主題を生み出し、形や色彩、構成などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、表現及び鑑賞の活動を通して心かな生活を創造していく態度を養おうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「絵画」 ・水墨画	2	墨などで表すことに関心を持ち、表現したいものやイメージを基に主題を生み出し、濃淡や線などの効果を考え表現の構想を練り、墨の特性を生かして創造的に絵で表す。	【知識】 墨の濃淡や筆の線の勢いなどが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、墨による表現のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 墨や筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	【発想】 感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、墨による表現の効果を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と筆使いや水加減の工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題などを基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的による表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「メディア」 ・動画制作	5	映像の特性を生かして表すことに関心を持ち、被写体の印象の魅力から主題を生み出し、構図の効果を考え表現の構想を練ったり、映像の特性を生かしたりして創造的に表す。	【知識】 写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 カメラや編集機能の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	【発想】 被写体の印象などを基に主題を生み出し、構図や効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題などを基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的による表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「版画」 ・版画について エッチング	10	表現したい主題に合うように版の特性を生かした表現効果を考え、材料や用具を工夫して版で表す。	【知識】 形や色彩、線や面、影の表し方などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、版による表現のよさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 彫りや刷りの生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	【発想】 感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、版による表現の効果を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と彫りや刷りの工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現したい主題などを基に構想を練ったり、意図に応じて彫りや刷りを工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に版による表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「工芸」 ・伝統工芸について 陶芸	10	・工芸作品や技の素晴らしさに関心を持ち、形や色彩、材料、技法、作風や印象などを捉え、人の手による技の素晴らしさや作品の美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める。 ・材料の特性や機能性を生かしてつくることに関心を持ち、材料のよさや美しさ、使う場面や機能などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし、見通しを持ってデザインし表す。	【知識】 材料の特性や質感、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や加工方法を基に、材料の持味を全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。	【発想】 材料のよさや美しさや機能などから主題を生み出し、使いやすさや機能と材料の特性や効果などとの調和を総合的に考え、表現する構想を練っている。 【鑑賞】 使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に材料の特性や機能性などを生かしてつくことを考えて構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科	美術	学年	3学年
----	----	----	-----

単元名	時数	単元の到達目標	単元のまとまりの評価規準		
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「工芸」 ・伝統工芸について 陶芸	5	・工芸作品や技の素晴らしさに関心を持ち、形や色彩、材料、技法、作風や印象などを捉え、人の手による技の素晴らしさや作品の美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める。 ・材料の特性や機能性を生かしてつくることに関心を持ち、材料のよさや美しさ、使う場面や機能などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし、見通しを持ってデザインし表す。	【知識】 材料の特性や質感、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や加工方法を基に、材料の持つ味を全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。	【発想】 材料のよさや美しさを基に、使う場面や機能などから主題を生み出し、使いやすさや機能と材料の特性や効果などとの調和を総合的に考え、表現する構想を練っている。 【鑑賞】 使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に材料の特性や機能性などを生かしてつくることを考えて構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「粘土彫刻」 ・箱庭	10	粘土の質感を生かし、形や質感などの特徴を捉えたり、自身らしさを考えてして主題を生み出し、構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。	【知識】 造形的な特徴などを基に、よさや印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	【発想】 感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「卒業制作」 エッチングキーホルダー	5	自分の心の中を見つめ、自分らしさや個性から主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、絵の具や用具などの特性を生かし意図に応じて創意工夫して絵や立体で表現する。	【知識】 形や色彩が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、形や色彩の組み合わせを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 材料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表している。	【発想】 自分の姿を深く見つめ感じ取ったことや心の内面などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に自分の姿から感じ取ったことや心の内面などを基に構想を練ったり、構図や表情など意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「絵画応用」 ・自画像	10	感情やイメージなどを形や色彩などで表すことに関心を持ち、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、形や色彩、構成などの効果を考え材料の特性を生かして創造的に絵や立体で表す。	【知識】 形や色彩が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、形や色彩の組み合わせを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 絵の具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	【発想】 感情やイメージなどの心の世界を基に主題を生み出し、形や色彩、構成などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【表現】 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、表現及び鑑賞の活動を通して心豊かな生活を創造していく態度を養おうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A表現 B鑑賞 〔共通事項〕 「メディア」 ・動画制作	5	映像の特性を生かして表すことに関心を持ち、被写体の印象の魅力から主題を生み出し、構図の効果を考えて構想を練ったり、映像の特性を生かしたりして創造的に表す。	【知識】 写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 カメラや編集機能の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	【発想】 被写体の印象などを基に主題を生み出し、構図や効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 【鑑賞】 造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている	【表現】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題などを基に構想を練ったり、意図に応じて筆使いや水加減を工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】 美術の創造活動の喜びを味わい主体的による表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

教科	保健体育	学年	第1・2・3学年
----	------	----	----------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健分野 【健康な生活と疾病の予防】	20	健康の成り立ちと疾病の発生要因および生活習慣と健康について、課題を発見し、その解決を目指した学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。	・健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生することを理解している。 ・健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを理解している。 ・生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養、及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることを理解している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを理解している。 ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解している。 ・健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用することを理解している。	・健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科	保健体育	学年	第1学年
----	------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健分野 【心身の機能の発達と心の健康】	12	心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した学習に自主的に取り組み、理解できるようにするとともに、ストレスへの対処の仕方を身につけることができるようにする。	・身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があることを理解している。 ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることを理解している。 ・知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることを理解している。 ・精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることを理解しているとともに、それらに対処する技能を身に付けている。	・心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・心身の機能の発達と心の健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科	保健体育	学年	第2学年
----	------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健分野 【傷害の防止】	8	傷害の発生要因およびその防止について、課題を発見し、その解決を目指した学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。	・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 ・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止でいることを理解している。 ・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。 ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。	・傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科	保健体育	学年	第3学年
----	------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育分科 A 体づくり運動	7	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 ○技能 ・技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
B 器械運動	9	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができ、それらを構成し演技することができる。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。	・技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を提案しようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
C 陸上競技	9	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。 ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。 ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切つて跳ぶことができる。 ・走り高跳びでは、リズミカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶことができる。	・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
D 水泳	9	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができる。	・泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止める、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
E 球技	12	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって安定した場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と足踏での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
F 武道	12	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・伝統的な考え方、技の名称や取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を倒して投げけり、抑えたりなどの攻防をすることができる。	・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行徳の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
G ダンス	10	(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 (2)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験をを通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	○知識 ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて印象的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。 ・フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りから、そのらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ることができる。 ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化と美しさを付けて、リズムに	・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
H 体育理論 (1)文化としてのスポーツの意義	3	(1)文化としてのスポーツの意義	○知識 ・文化としてのスポーツの意義について理解している。	・文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・文化としてのスポーツの意義についての学習に主体的に取り組むようとしている。

教科	保健体育	学年	第3学年
----	------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健分野 【健康と環境】	8	健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。	・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解している。 ・飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があることを理解している。 ・人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。	・健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第1学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
D 情報の技術 1-1生活や社会と情報の技術 ①情報の技術 ②P Cの構成 ③デジタル化 ④情報の特徴 1-2情報の伝達 ①ネットワーク ②情報のしくみ 1-3情報セキュリティと情報モラル ①情報セキュリティ ②情報モラル ③知的財産の保護と活用 1-4 P Cとプログラミング ①P Cによる処理のしくみ ②プログラムの構造と表現	15	○情報の技術の見方・考え方を働かせ持続可能な社会の構築を目指したコンピュータ作品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解をしている。 ○情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みを理解し安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。	○情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	○主体的に情報の技術について考え理解をしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第1学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A材料と加工の技術 1-1生活や社会と材料と加工の技術 ①材料と加工の技術 1-2材料を利用するための技術 ①性質と種類 ②加工のしくみ ③材料と加工 ④丈夫な構造 ⑤製図 2-1問題解決 ①問題解決 ②課題設定 ③設計 2-2製作のための技能（木材） ①けがき ②切断 ③切削 ④穴あけ ⑤組み立て ⑥仕上げ	20	○材料と加工の技術の見方・考え方を働かせ、より安全な生活を生活を目指した木工作品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、材料と加工の技術と安全な生活の社会との関わりについて理解を深めるとともに生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる問題を見いだして課題を設定する力、安全な生活や社会の実現に向けて適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫して創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○材料や加工の特性等の原理・法則と材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解をしている。 ○製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえて材料と加工の技術の概念を理解している。	○材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し材料の選択や成形の方法等構想して設計を具体化するとともに製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○材料と加工の技術を評価し適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	○主体的に材料と加工の技術について考え、理解しようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第2学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み ①生物育成の技術 ②生物の育成環境を調節する技術 ③作物の成長を管理する技術 ④動物を育てる技術 ⑤水産生物を育てる技術 ⑥生物育成の技術の工夫 2章 生物育成の技術による問題解決 ①問題を発見し課題設定 ②生物の育成計画 ③成長段階に合わせて適切に育成する ④問題解決 3章 社会の発展と生物育成の技術 ①生物育成の技術の最適化 ②生物育成の技術のまとめ	5	○生物育成の技術の見方・考え方を働かせ地域の自然環境へ配慮して野菜を栽培する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されている生物育成の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに地域社会の中から生物育成の技術と環境に関わる問題を見いだして課題を設定する力、よりよい地域社会の構築に向けて適切かつ誠実に生物育成の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。 ○安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができる技能を身に付けている。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえて生物育成の技術の概念を理解している。	○生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○生物育成の技術を評価し適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	○主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善しようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築にむけて生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。

学校名：江戸川区立清新第一中学校

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第2学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み ①エネルギー変換の技術 ②発電の仕組みと特徴 ③電気を供給する仕組み ④電気回路 ⑤電気機器の安全 2章 エネルギー変換の技術による問題解決 ①問題を発見し課題設定 ②電気回路を設計・製作	20	○エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせ日常生活に役立つ製品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けエネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中からエネルギー変換の技術と安心・安全に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、安全な社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○電気、運動、熱の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達などに関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解している。 ○安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえてエネルギー変換の技術の概念を理解している。	○エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○エネルギー変換の技術を評価し適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	○主体的にエネルギー変換の技術について考え、理解しようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けてエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。

学校名：江戸川区立清新第一中学校

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第2学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 編 情報の技術 2 章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 ①双方向性のあるコンテンツ ②問題発見、課題設定 ③コンテンツの構成 ④コンテンツのプログラム製作 ⑤問題解決	10	○情報の技術の見方・考え方を働かせ持続可能な社会の構築を目指したコンピュータ作品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解をしている。 ○情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みを理解し安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。	○情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	○主体的に情報の技術について考え理解をしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。

学校名：江戸川区立清新第一中学校

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第3学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則の仕組み ⑥運動エネルギーへの変換と利用 ⑦回転運動を伝える仕組み ⑧機械が動く仕組み ⑨機械の保守点検 ⑩エネルギー変換の技術の工夫 2章 エネルギー変換の技術による問題解決 ③機構モデル設計・製作 ④問題解決 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術 ①エネルギー変換の技術の最適化 ②エネルギー変換の技術のまとめ	20	○エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせ災害時に役立つ製品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けエネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中からエネルギー変換の技術と安心・安全に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、安全な社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○電気、運動、熱の特性等の原理・法則とエネルギーの変換や伝達などに関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解している。 ○安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえてエネルギー変換の技術の概念を理解している。	○エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○エネルギー変換の技術を評価し適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	○主体的にエネルギー変換の技術について考え、理解しようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けてエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。

教科	技術・家庭（技術分野）	学年	第3学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 編 情報の技術 3 章 計測・制御のプログラミングによる問題解決 ①計測・制御システム ②問題発見、課題設定 ③計測・制御システムを構想する ④計測・制御システムのプログラム制作 ⑤問題解決 4 章 社会の発展と情報の技術 ①情報の技術の最適化 ②情報の技術のまとめ	15	○情報の技術の見方・考え方を働かせ持続可能な社会の構築を目指したコンピュータ作品を開発する実践的・体験的な活動を通して生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	○情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解をしている。 ○情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みを理解し安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 ○計測・制御システムの仕組みを理解し安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえて情報の技術の概念を理解している。	○情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○問題を見いだして課題を設定し入力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。 ○情報の技術を評価し適切な選択と管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	○主体的に情報の技術について考え理解をしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりしようとしている。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫し創造しようとしている。

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	第1学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 家庭分野のガイダンス	1	○小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3学年間の学習内容の見直しをもつ。 ○各内容と家族・家庭の基本的な機能が関連していることに気づく。			
A(1)今の自分とこれから ①これまでとこれからの自分 ②家庭のはたらきと家庭の仕事 ③家庭の仕事 ④様々な家族・家庭 ⑤多様な家族 ⑥多様な家族関係	5	○自分の成長と家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ○家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくできることを理解する。 ○自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 ○家庭で活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。 ・家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ・家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 ・家族の互いの立場や役割について理解している。	・家族とのかかわりについて問題を見いだして課題を設定している。 ・家族とのかかわりについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・家族とのかかわりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・家族とのかかわりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・よりよい家庭生活の実現に向けて、家庭生活について工夫し創造し、実践しようとしている。
A6 かかわりあう地域と家庭 ①生活を支える地域 ②地域に暮らす高齢者 ③多様な人々が暮らす地域	3	○家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。 ○地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。 ○地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。 ○地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわり考える。	・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。 ・高齢者など地域の人びとと協働する必要があることについて理解している。 ・介護など高齢者との関わり方について理解している。 ・介護など高齢者との関わり方について理解している。	・地域の人びとと関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定している。 ・高齢者と関わる方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。 ・高齢者と関わる方法について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・地域との関わりについて工夫し創造し、実践しようとしている。
A7 持続可能な家庭生活	1	○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題をみつけ、実践的に取り組む。		・社会や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した生活について考え、工夫している。	・持続可能な社会を目指して、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組む、工夫し創造し、実践しようとしている。
B 食生活1人間にとっての食事 ①食事の役割 ②毎日の食習慣と健康の基本 ③食事の役割と調理	2	○食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。 ○健康に良い食事について学び、規則正しい食事をとることの重要性を理解する。	・生活の中で食事が果たす役割について理解している。 ・健康に良い食習慣について理解している。	・自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定している。 ・自分の食習慣について解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい食生活の実現に向けて、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
2 食品と栄養素 ①食品と栄養素をつなぐ ②栄養素のはたらき 3 中学生に必要な食事 ①中学生の発達と必要な栄養 ②栄養バランスを目で見て判断	2	○中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ○食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。 ○中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 ○1回の食事を目で見て栄養のバランスがとれているかを判断できるようにする。	・中学生の1日に必要な食品の種類について理解している。 ・栄養素の種類と働きがわかり、食品の栄養的特質について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と分量について理解している。	・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定している。 ・中学生の1日分の献立について解決策を構想している。	・中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
4 日常食の調理と地域の食文化 ①食品と調理 ②肉の特徴と調理 ③魚の特徴と調理 ④野菜の特徴と調理	8	○調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 ○おいさと調理の関係や調理における衛生と安全を理解し実践できるようにする。 ○肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 ○魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 ○野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。	・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	・日常の1食分の調理における、調理の仕方や調理計画について問題を見いだして課題を設定している。また、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理の課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
生活の課題と実践	1	○今まで学習してきた中から、課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ○実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践につなげられる。		・問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B5 献立づくり 一日分の献立	2	○各食品群の食品を組み合わせて、栄養バランスのとれた1日分の献立を考えることができる。	・1日分の献立を作成する方法について理解している。	・中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B 衣生活 2 衣服の選択と着方 ①新たに衣服がひとつようになったとき ②既製服の選び方 ③自分らしい着方 ④和服の文化にふれてみよう	4	○衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ○自分らしい着方を工夫することができる。 ○和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ○自分の衣服計画が立てられる。 ○既製服を選ぶポイントがわかる。	・衣服と社会生活との関わりについて理解している。 ・目的に応じた着用について理解している。 ・個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服と社会生活との関わりについて理解している。 ・衣服の計画的な活用必要性について理解している。	・衣服の選択について問題を見いだして課題を設定している。 ・衣服の選択について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B3 布をもちいた作品で生活を演出 生活を豊かにするものの製作 製作の基礎・基本	6	○布を用いて生活を豊かにするものを考える。 ○製作の計画を立て、布を用いて生活を豊かにするものをつくる。	・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。	・資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	第2学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B3 さまざまな食品とその選択 食品が食卓にのぼるまで ①生鮮食品の選択と保存 ②加工食品の選択 ③食品の安全と情報	5	○生鮮食品の特徴がわかる。 ○目的に応じて生鮮食品を選択・保存できる。 ○加工食品の特徴がわかる。 ○目的に応じて加工食品を選択できる。 ○食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択できる。	・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切に選択できる。	・食品の選択について問題を見いだして課題を設定している。 ・食品の選択について解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 ・よりよい生活の実現に向けて、食品の選択について、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B5 地域の食文化	3	○地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。	・地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。	・調理における調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B7 持続可能な食生活 持続可能な食生活をめざして	2	○持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。		・社会や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した食生活について考え、工夫している。	・よりよい食生活を目指して、課題の解決について、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。
B2 日常着の手入れと保管 ①まかせて衣服の手入れ ②布の繊維に応じた手入れ ③めざそう洗濯名人 ④補修や収納・保管	8	○衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ○取扱表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ○衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ○衣服が傷んだら、痛みの状況に合わせた方法で衣服のアイロンかけや収納・保管を適切に行うことができる。	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	・日常着の手入れについて問題を見いだし課題を設定している。 ・日常着の手入れについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現しているなどして、課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
生活の課題と実践	2	○今まで学習してきたの中から課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ○実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけるための実践につなげられる。		・問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B4 持続可能な衣生活 持続可能な衣生活をめざして	1	○資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。		・社会や環境に配慮した衣生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した衣生活について考え、工夫している。	・持続可能な衣生活を目指して、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。
A2 幼児の生活と家族 ①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④発達にとってのおとなの役割 ⑤遊びが必要なわけ ⑥遊びを支える環境	10	○自分の成長をふり返り、幼児期への関心をもつようにする。 ○幼児の身体の発育について、発達の方角性や順序性とともに、個人差があることを理解する。 ○幼児の言語・認知・情緒・社会性などの発達について理解する。 ○子どもが育つ環境としての、家族や周囲のおとなの役割について理解する。 ○自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとつての遊びの意義を理解する。 ○幼児にとつて遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。	・幼児と生活の特徴がわかり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・幼児にとつての遊びの意義について理解している。	・幼児との関わり方について問題を見いだして課題をし、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
A3 幼児とのかかわり ①ふれ合い体験の前に ②ドキドキワクワクふれ合い体験 ③ふれ合い体験は幼児からの贈り物 ④子どもの成長と地域	4	○幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 ○幼児とのかかわり方について身につけた基礎的・基本的な知識を活用し、工夫することができる。 ○幼児とのかかわり方について、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。 ○子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で中学生ができることを考える。	・幼児との関わり方について理解している。 ・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。	・幼児との関わり方について問題を見いだして課題をし、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活のために、幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうと、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	第3学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A(2) 幼児の生活と家族 3幼児との関わり	1	○幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	・幼児とのかかわり方について理解している。	・幼児との関わりについて解決策を構想し考察したことを論理的に表現している。	・幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
C1家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ ②家庭生活における収入と支出	2	○物資とサービスの特徴がわかる。 ○消費生活のしくみがわかる ○収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。	・物資・サービスについて理解している。 ・計画的な金銭管理の必要性について理解している。	・物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定している。 ・物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・よりよい生活の実現に向けて、金銭管理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている
C2購入・支払いと生活情報 ①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと ③いろいろな支払い方法 ④情報を活用した上手な購入	3	○店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。 ○売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。 ○即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。 ○生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶ。	・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み・支払い方法の特徴が分かり、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	・物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現する。	・よりよい生活の実現に向けて、金銭管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
C3消費者被害と消費者の自立 ①なくならない消費者被害 ②消費者をささえるもの ③消費者の権利と責任	3	○消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。 ○消費者を支えるしくみについて理解できる。 ○消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。	・消費者被害の背景とその対応について理解している。 ・消費者の基本的な権利と責任について理解している。	・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、考察したことを論理的に表現する。	・消費者被害の対応について、課題の解決に主体的に取り組む、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
C4持続可能な社会 ①消費行動が社会に与える影響 ②消費行動が環境に与える影響 ③世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造へ	2	○購入を通して消費者の行動が社会や環境に与える影響について理解する。 ○環境に配慮したライフスタイルを選択し、実践できる。 ○持続可能な生活にするために、自分たちができることを考える。	・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定している。・解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B住生活1 住まいのはたらきとこころよさ ①住まいのはたらき ②住まいの空間	2	○住まいの基本的な役割について理解する。 ○日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ○住まいの空間の使い方について理解する。 ○さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。	・住居の基本的な機能について理解している。 ・家族の生活と住空間との関わりが分かりについて理解している。	・住生活について問題を見いだして課題を設定している。・家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B2安全な住まいで安心な暮らし ①家庭内事故への備え ②災害への備え	3	○家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ○幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。 ○地域さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。	・家庭内の事故の防ぎなど家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	・家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B3持続可能な住生活 持続可能な住生活	1	○持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る		・社会や環境に配慮した住生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した住生活について考え、工夫している。	・持続可能な住生活を目指して、工夫し、創造し、実践しようとしている。 ・社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組む、工夫し創造し、実践しようとしている
3年間を振り返って	0.5	○3年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気づく。			・家庭分野で学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。

教科	外国語	学年	第1学年
----	-----	----	------

ま 内 容 の ま と り	時数	内容のまとまりの到達目標	内容のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	140	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと		ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
話すこと「やりとり」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと「発表」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

教科	外国語	学年	第2学年
----	-----	----	------

ま 内 容 の ま り	時数	内容のまとまりの到達目標	内容のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	140	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと		ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
話すこと「やりとり」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと「発表」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

教科	外国語	学年	第3学年
----	-----	----	------

ま 内 容 の ま と り	時数	内容のまとまりの到達目標	内容のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	140	ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと		ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
話すこと「やりとり」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと「発表」		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと		ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。